

平成25年度

総合地域学習「千種学」講座の記録



宍粟市立千種中学校

兵庫県立千種高等学校

たたらの里学園運営協議会連絡会

「千種学」教材開発研究会

目 次

1	はじめに	喜多 英雄 2
2	平成25年度1学期総合地域学習「千種学」講座 実施要項	. . . 3
3	平成25年度2学期総合地域学習「千種学」講座 実施要項	. . . 4
4	平成25年度3学期総合地域学習「千種学」講座 実施要項	. . . 5
5	総合地域学習「千種学」講座の記録（1学期～3学期） 6
6	総合地域学習「千種学」研究発表の記録 32
7	平成25年度「千種災害対策プロジェクト」実施の記録 38
8	平成25年度 新聞で見る「千種学」 44
9	広報しそ「しそトピックス」に見る「千種学」 46
10	おわりに	鳥居 政義 47

1 はじめに

宍粟市立千種中学校
校長 喜多 英雄

「千種学」は、「千種の自然、歴史、産業を学び、千種に誇りを持ち、千種を伝える力を育成する」ことを目標に、平成 23 年度から全学年においてスタートしました。

千種には、森林・水・鉱物などの天然資源に加え、スキー場、ゴルフ場、歴史的文化的遺跡などの観光資源があります。健康に配慮した農業、畜産業があり、付加価値の高い農産物や加工品があります。また、世界に誇る技術を有し、市場シェアが高い製品を作る企業もあります。手漉き和紙など歴史的文化を継承される方もいらっしゃいます。

ところが、生徒達はこの千種が持つ素晴らしい資源や文化、産業を十分に理解しないまま社会人になります。そこで、千種を教材とし、地域の方々を講師に迎え、体験的に千種のことを学ぶことが出来る「千種学」を開講しました。

今年度は、1 学期 1 2 講座（主として 3 年生対象）、2 学期 1 2 講座（主として 2 年生対象）、3 学期 7 講座（主として 1 年生対象）計 3 1 講座を計画しました。本講座の内容については、3 ページから 5 ページにわたって記載していますが、分野は多種多様で、それぞれが興味深い内容となっています。また 6 ページからは実施記録を載せていますので、ご覧いただければ幸いです。

年間 3 回実施している本校の学校運営協議会においても、「千種学」は高い評価を得ています。学校運営委員の方々からは、「千種学は本当に素晴らしい取組で広く内外に知ってもらいたい。引き続き、地域を巻き込んで成熟していった欲しい。」「生徒達には、自然の中で、厳しさも含め千種の良さを感じながら成長して欲しい。何処にいても、どんな生き方をしても、心の原点となる故郷を愛せる人に育って欲しい。今後も、学校・家庭・地域をあげて千種学を展開・継続していくべきだと思います。」という貴重な意見を頂いています。

来年度も、過去 3 年間の蓄積を活かし、教職員の心を一つにして、さらに素晴らしい「千種学」となるよう、邁進していくことをお約束してはじめての言葉といたします。

2 平成25年度 1学期総合地域学習「千種学」講座 実施要項

- (1) 目的 千種の自然、歴史、産業を学び、千種に誇りを持ち、千種を伝える力を育成する。
- (2) 学習スローガン 「千種を知り、千種を愛し、千種に誇りを」
- (3) 対象学年 3年生 22名 2年生 32名 1年生 30名
- (4) 実施計画 (1学期)

月 日	主 題	目 標	講 師
4月19日(金) (3年生) ①	千種の伝統行事	毎年4月21日、町内一斉開催される行事「おせったい」を考察することを通して、地域行事の意義に気づき、地域住民としての自覚を持つ。	池谷 真勝
4月23日(火) (3年生) ②	学校周辺の植生	学校周辺及び隣接する大森神社社叢の植生を調査・観察し、植物(樹木)がいかに生活に役立てられているかを学ぶ。	内海 功一
5月 9日(木) (1年生と高校1年生) ③	ユリの植え付け	夏のちくさ高原に観光客を招くために、150万輪のユリを植え付ける作業の一端を担う。これからの千種の観光についても考えを深める。	高橋 大樹
5月15日(水) (1・2年生) ④	笛石山登山	千種富士と呼ばれ地元の人に親しまれている笛石山の登山を通して千種の自然を体感し、山頂から千種の町並みを眺めて千種の町を再認識する。	井口 至喜 堂場 政彦 岸陰 吉保
5月23日(木) (3年生) ⑤	茶摘みと製茶体験	学校農園茶畑での茶摘みから製茶体験(炒る・揉む・乾かす)を通して、千種の農家に伝わる豊かな茶文化を体験する。	松木 富子
5月27日(月) (3年生) ⑥	宍粟特産3尺胡瓜づくり	宍粟特産3尺胡瓜について学び、廃れつつある宍粟特産物の復活を期して、学校農園での栽培を行う。	田中 康夫
6月 6日(木) (3年生) ⑦	柏もち作り	千種に伝わる「ばたこ」作りを通して、郷土料理の豊かさを感じ、地域の食文化が地域の歴史と心を伝えていることに気づく。	植田美代子 椋木 幸代
6月15日(土) (3年生) ⑧	学校周辺の文化財から千種の歴史を学ぶ	学校前庭の「河呂大森(弥生)遺跡」、戦国時代の宇野氏にまつわる「お塚さん」、農村歌舞伎舞台を実地調査し、豊かな文化財について学ぶ。	上山 明
6月20日(木) (3年生) ⑨	陶芸教室	千種に窯を築き30年以上活躍されている陶芸家より陶芸の基礎と陶芸の喜びを学び、地域の文化の奥深さと可能性に気づく。	当麻 嘉英
6月28日(金) (3年生) ⑩	ふれあいゲートボール	地域の高齢者とゲートボールを楽しみ、親交を深める中で、千種の歴史を生き抜いた人生の先輩の話聞き、千種を考え自己を省みる機会とする。	八田 亀治 河野 義春
7月 4日(木) (3年生) ⑪	千種の将来を担う君たちへ	過疎化と少子高齢化が急速に進む千種にあって、将来への夢を育み、生活の場としていける地域の在り方を有機農業を推進する立場から考える。	今井 和夫
7月12日(金) (千種中学校・千種高校・地域住民) ⑫	宍粟・千種を探検しよう! (中高連携)	「千種学」講座を中高連携の形で行い、千種に対する理解を深める機会とする。さらに、宍粟は勿論兵庫県内の山々や峠に関する数々の著作があり、今も健脚を誇って兵庫県内外の山を踏破されている須磨岡先生から直接話を聞く貴重な機会とする。	須磨岡 輯

3 平成25年度 2学期総合地域学習「千種学」講座 実施要項

- (1) 目的 千種の自然、歴史、産業を学び、千種に誇りを持ち、千種を伝える力を育成する。
- (2) 学習スローガン 「千種を知り、千種を愛し、千種に誇りを」
- (3) 対象学年 3年生 22名 2年生 32名 1年生 30名
- (4) 実施計画 (2学期)

月 日	主 題	目 標	講 師
10月 2日(水) (1年生)	手漉和紙づくり	千種でかつて盛んであった手漉和紙づくりの歴史と技術を学び千種が育んだ文化に触れ、「播州ちくさ手漉和紙」作りを体験する。	吉留 新一 吉留 真弓
10月 4日(金) (2年生)	たたら製鉄学習 (1) [知識]	たたら製鉄体験学習の概要を学び、たたら製鉄への関心を高め、歴史教材により先人の知恵と技術を学ぶ。	上山 明 鳥居 政義
10月16日(水) (1年生)	絵手紙づくり	絵手紙の指導をしていただく地域の野菜生産者の方から地元野菜について学ぶ。栽培した野菜を使って絵手紙を描く。	金本 勉
10月25日(金) (1年生)	ちくさ高原花 いっばいポラ ンティア活動	財団法人宍粟森林王国主催「しろう森林王国ネイチャーアート事業」に参加し、千種町振興に貢献する。ちくさ高原スキー場花壇に芝桜を景観を考えながら植栽し、千種の自然を愛する心を育成する。	千種市民局 地域振興課 しろう森林 王国協会
10月30日(水) (2年生)	国際感覚を 養う	ハロウィーン(収穫感謝祭)を題材とし、異文化への関心を高め、英語を世界でのコミュニケーションの手段として使うことの喜びを体験する。	磯崎由里香
10月31日(木) (2年生)	たたら製鉄 学習 (2) [実習]	古来より当地で営まれてきた、伝統的な「たたら製鉄法」によりたたら製鉄実習を行う。「宍粟鉄を保存する会」のご指導のもと、地元で採集した砂鉄を使った製鉄実習とたたら製鉄に関する歴史学習を通して、先人の知恵を学ぶ。	鳥羽 弘毅 河野 寛二 上山 明 堂場 政彦 日平 閣次 岸 蔭吉 藤原 誠
11月 6日(水) (2年生)	千種の植生	千種町は恵まれた自然環境のなかで、豊かな植生を形成している。千種の山々と千種川周辺の植生を学び、郷土の自然を大切に育てる。	石神 周山
11月13日(水) (2年生)	今の中学生に 願うこと	故郷を愛し、世界にも目を向け、これからの自分の生き方を考えていく。	石神 周山
11月20日(水) 11月27日(水) (2年生)	たたら製鉄 学習 (3) (4) [まとめ]	たたら製鉄学習のまとめとして、感想文集と班新聞を作成し、その成果を他学年生徒及び地域に発信できるようにする。 (校報・文化祭での発表)	原田 千草 上山 昌秀 光岡 優子
11月20日(水) (2年生)	千種の観光	ちくさ高原の四季の美しさを再発見し、これからの千種の観光について考え、地域を愛する心を育てる。	高橋 大樹
12月 6日(金) (全校生と 小学生)	ふれあい しめ縄づく り	老人クラブの方々の指導のもと、千種に伝わる伝統文化(しめ縄づくり)を学び、心のふれあいや交流を通じて、創造的な能力・態度を育成する。	各自治会老 人クラブ
12月18日(水) (2年生)	千種の企業 から学ぶ	地元企業の企業理念と事業内容を学び、千種と日本及び世界との繋がりを考える。地元企業が職場提供と地域振興に貢献する実情を学び、地元での進路実現の可能性を考える。	牧瀬 秀之 鳥居 史郎

4 平成25年度 3学期総合地域学習「千種学」講座 実施要項

(1) 目的 千種の自然、歴史、産業を学び、千種に誇りを持ち、千種を伝える力を育成する。

(2) 学習スローガン 「千種を知り、千種を愛し、千種に誇りを」

(3) 対象学年 2年生 32名 1年生 30名

(4) 実施計画(3学期)

月 日	主 題	目 標	講 師
1月14日(火) (1年生) (25)	播磨国風土記	風土記とは何かを学習し、播磨国風土記を通して「千種」を学び、「宍粟」の名のいわれも学習する。また、「千種」が古代より鉄の産地として栄えたことについても学習する。	堂場 政彦
1月21日(火) (1年生) (26)	千種の農村歌舞伎舞台から学ぶ	千種に現存する農村歌舞伎舞台(河呂、岩野辺、下河野)の歴史的意義を学び、保存に尽力する地元住民の願いを知り、地域文化を継承する意欲を高める。	上山 明
2月 7日(金) (1年生) (27)	私たちと森林～木と森について考えてみよう～	千種の山々と豊かな森林資源に目を向け、森林が果たす役割、森林開発及び保全、木材利用について学び、千種の森林産業の可能性を考える。	岩成 麻子
2月19日(水) (2年生) (28)	食を通して千種の良さを考えてみよう	県下を代表する名水、千種川の清流を利用して生産される米、野菜、果実などのすばらしさに気づく。	今井 和夫
2月21日(金) (1年生) (29) ※中止	千種材加工	千種の木材を利用して、家庭でも使える「鉛筆立て」を作成する。また、木材加工の知識や技術を身に付け、郷土愛を育む。	木山 昭雄 岩成 麻子 廣岡 充生
3月 4日(火) (1年生) (30) ※中止	地元企業見学	地元企業(株式会社プラントリイ)を訪問し、地元企業が持つ高度な技術を見学し、製造・事業展開で千種が日本・世界に繋がっていることを学ぶ。	鳥居 史郎
3月13日(木) (1年生) (31)	千種の将来を担う君たちへ	千種町で活躍されている方々から、現在の千種の状況、地域での活動内容、千種に対する思いを学び、故郷千種への理解を深め、故郷を愛し、故郷に誇りを持ち、自ら故郷千種の未来を切り開いていこうとする意欲を高める。	阿曾 慎也 阿曾 光子 木梨美由紀 土井 康平

5 総合地域学習「千種学」講座の記録

(1) 第1回千種学講座

実施日時	4月19日(金) 13:15~14:05
主 題	千種の伝統行事
授 業 者	池谷真勝
受講生徒	3年生 22名
目 標	毎年4月21日、町内一斉開催される行事「おせったい」について考察することを通して、地域行事の意義に気づき、地域住民としての自覚を持つ。
学習内容	(1) 「七夕」「端午」「大晦日」「七五三」「仲秋の名月」「節分」等が何月何日か。 (2) 毎年4月21日の「おせったい」の日の意味について学ぶ。 (3) 「旧暦」と「新暦」について学ぶ。 (4) 日本の文化・伝統・気質について学ぶ。 (5) わたしたちの「郷土」について学ぶ。
学習記録	(1) 年間行事について再確認するとともに、「旧暦」と「新暦」の違いや「五節句」と「二十四節気」についても学習し、郷土行事との繋がりについて学んだ。 (2) 毎年4月21日は「お接待の日」と呼ばれ、また「お大師さんの日」とも言うということ、そして「おせったい」に行けるのは人間だけではなくて犬や猫まで行けるということ、更には千種周辺で88ヵ所以上もあることを学んだ。 (3) 「おせったい」という行事には、相互扶助の精神や思いやりの心が込められており、日ごろからそのような気持ちを育むよう訓練し、感性を磨いておくことが大事であるということ、池谷先生のお話から学んだ。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・おせったいのことや月日のことなど知らないことばかりで、とてもためになりました。いつも行事を考えずに生活していました。でも今日話を聞いて、少し意識して生活していきたいと思いました。 ・行事の日にちで知らない日もあったけれど、今日わかったのでよかったです。おせったいが開かれている意味もちゃんとわかりました。「いいことをすると必ず自分に返ってくる」という言葉も知っていましたが、これからも人のために進んで動けるようにがんばりたいです。 ・いつもは何も思わず、おせったいに廻ったり、当番をしていました。今日のお話で、実はおせったいに深い意味があったのだと知って、この千種がもっと好きになりました。 ・小学校の時までは何も考えなくて、お金を賽銭箱に入れて、お菓子をもって帰るのだけが楽しい行事でしたが、今日まで何のためなのか知りませんでした。おせったいとして回れる場所が八十八ヵ所以上あるのには驚きました。
	 

(2) 第2回千種学講座

実施日時	4月23日(火) 13:15~14:05
主 題	学校周辺の植生 河呂・千草大森神社の社叢
授 業 者	内海功一
受講生徒	3年生 22名
目 標	学校周辺の植生を調査・観察し、植物(樹木)がいかに生活に役立てられているかを学習する。
学習内容	(1) 大森神社と年輪について学ぶ。 (2) タンポポについては西洋タンポポが主であるということ。 (3) ワラビについては、原始的な植物であるということ。 (4) 竹について(オカメザサやタケノコ) (5) スズコやコシアブラなどの山菜取りについて
学習記録	(1) 当日は、屋外で講義を行う予定であったが、雲行きが怪しかったので教室での学習となった。身近な植物と私たちの暮らし、特に千種の人たちがどのようにして植物を食べたり、また食用に適するように調理したかについて学んだ。 (2) 様々な植物の名前についても学び、長い名前・短い名前、そして正式名称と千種での呼び名(方言)との関係について学んだ。 (3) 千種の野や山に咲く花々、木々の種類が非常に多いことに驚くと同時に、その豊富な植生はきれいな空気や水があるお陰であることも再認識できた。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・これだけの自然に囲まれていたけど、知らないことだらけでした。ダンジはダンジだと思っていて驚きました。タンポポが食べられるなんて思ってもいなかったし、ワラビのでんぷんが高級な「のり」になるのも初めて知りました。 ・一番びっくりしたのは、タンポポの葉が食べられるということです。昔、興味本位で食べてみたんですが、苦味が強くて食べられなかったです。ワラビやタケノコなどを食べられるようにアク抜きした昔の人はすごいと思いました。 ・タンポポやタケノコを実物で詳しく教えてくださったので、よくわかりました。花については全然わからなかったけど、食べられる部分や名前がよくわかりました。タンポポがコーヒーになったり、葉を食べたりするには驚きました。 ・今日、講話を聞かせていただいて、タンポポだけ約30種類、スマイレだけで約100種類もあると知って驚きました。フキもワラビも茎でなく「葉」を食べていると知り、とてもためになりました。 ・私たちは、本当に素晴らしい自然に囲まれているに、自然に対して何もわかりませんでした。今日のお話でたくさんのお話を教えていただいたので、何となくけど、自然のことについてわかってきたように思います。
	 

(3) 第3回千種学講座

実施日時	5月9日(木) 13:15~15:05
主 題	ユリの植え付け
授 業 者	高橋大樹、ちくさ高原スタッフ
受講生徒	千種中学校1年生 30名 千種高等学校1年生 39名
目 標	夏のちくさ高原に観光客を招くために、150万輪のユリの球根植え付け作業の一端を担い、地域に貢献する心を育むとともに、千種の観光について考える。
学習内容	<p>(1) これまで冬しかお客のなかった「ちくさ高原」に、夏であっても多数の観光客を呼び込んで町を活気づけようとする、「ちくさ高原開発企業組合」の壮大なる構想について学ぶ。</p> <p>(2) ナリの球根の植え付け方法を学び、「ちくさ高原」の観光開発の一助となるべく植え付け作業をするとともに、シバザクラの植え付けも行い、同施設の環境整備に力を尽くす。</p> <p>(3) 中高連携の形で作業を行い、一体となって地域に貢献する心を養うとともに、中高生であってもいざという時には地域の役に立てるという自信を深める。</p>
学習記録	<p>(1) 13時30分「ちくさ高原スキー場」に到着し、中高合同で開講式を実施。</p> <p>(2) 13時40分に作業開始。中高それぞれの植え付け場所にユリの球根を植えて行った。植え付け作業は順調に進み、予定通りの作業を時間内に行えた。</p> <p>(3) さらに、シバザクラの植え付け作業を行い、赤と白の色ごとにストライプ状となるようにして作業を進め、同高原の環境整備・緑化美化に貢献することができた。</p>
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の5・6時間目にユリの球根を植えに行きました。僕はユリの球根を植えるのは初めてだったので、少し不安だったけれど、ちくさ高原の方々から教えてもらったので上手に植えることができました。何個植えたかは覚えていないけれど、かなりスムーズにできたので楽しかったです。7月ぐらいに咲くと教えてもらったので、また咲いてから来たいと思います。 ・ユリの球根植えをして、土を掘るとき土が固くて掘るのも大変でした。私は時間がかかって8個しか植えられなかったけど、頑張ることができたのでよかったです。ユリは一つの球根から何輪もの花が咲くことを初めて知りました。 ・今日、自分でよかったと思うことは、みんなが休まずにテキパキと動けたということです。あたりまえのことが、しっかりできました。 ・今日の千種学は、高原にユリを植えに高校生の人たちと行きました。とても疲れたけれど、いい経験になりました。それで千種町がにぎやかになったらうれしいし、僕もたくさんユリを見たいので、きれいに咲いてほしいです。
	 

(4) 第4回千種学講座

実施日時	5月15日(水) 8:15~15:30
主 題	笛石山登山
授 業 者	井口至喜、堂場政彦、岸蔭吉保
受講生徒	1年生 30名 2年生 32名
目 標	千草富士と呼ばれ、地元の人たちに親しまれている笛石山の登山を通して千種の自然を体感し、山頂から千種の町並みを眺めて千種の町を再認識する。
学習内容	(1) 地域の人に「千草富士」と呼ばれており、新緑とコバノミツバが見頃の笛石山(894m)登山に挑戦し、眼下に広がる千種の景観の美しさを再認識する。 (2) このふれあい登山を通して、仲間と助け合い協力することの大切さを学ぶ。 (3) 「笛石山」の名前の由来となった「長水城落城」伝説について学び、戦国時代の宍粟や千種の状況に思いを馳せるとともに、山上から宍粟一円の山々を眺めることによって歴史的な自然観を養う機会とする。
学習記録	(1) 8:15に中学校で出発式を行い、8:30に学校を出発。徒歩にて松の木公園に到着。その間約50分、登山前の心地よきウォーミングアップとなった。 (2) 松の木公園にて開講式を行い、続いて「笛石山名前の由来考」と題する講義を受けた。郷土の歴史について知り学ぶことで、幼い頃より慣れ親しんできた「千種」の山や川が、歴史の一舞台として眼前に迫ってくるという体験をした。 (3) 10:00に登山を開始し、約2時間かけて頂上に到着。昼食を取った後、「猫石」の上で記念撮影を行った。頂上からの眺めは、即郷土の地形・地理の学習となり、各時代を通じて千種を往来した戦国武将や商人たちの活躍に思いを致す絶好の機会となった。13:00下山開始。14:30松の木公園で閉講式を行った。15:30学校着。登山の疲れを癒すべく帰宅の途に就いた。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・今日笛石山に登って最初はとても「しんどいな」と思いました。でも、みんなと話をしたりして登っていたら全然しんどくありませんでした。途中で見える景色もきれいで、しんどさを忘れていました。 ・5月15日楽しみにしていた1・2年生合同の笛石山登山がありました。私は1回も登ったことがなかったので、猫石を近くで見ることがとても楽しみにしていました。堂場さんのお話を聞いて笛石山の歴史などもよくわかりました。登りはしんどかったけれど、頂上に着いた時には達成感がありました。 ・私は千種で育ちましたが、詳しいことはほとんど知らず、登ったこともありませんでした。今日堂場さんに笛石の由来を聞いて謎がわかって本当にすっきりしました！でも悲しい歴史の中でできた名前なので、少し切なくなりました。
	 

(5) 第5回千種学講座

実施日時	5月23日(木) 13:30~15:05
主 題	茶摘みと製茶体験
授 業 者	松木富子
受講生徒	3年生 22名
目 標	学校農園茶畑での茶摘みから製茶体験(煎る・揉む・乾かす)を通して、千種の農家に伝わる豊かな茶文化を体験する。
学習内容	(1) お茶についての歴史や基本的な事柄について学習する。 (2) 学校農園茶畑で実際に茶葉を「摘む」作業から入り、班ごとに協力し合っ て「煎る」・「揉む」作業を進め、地元の各家庭に伝わる製茶を体験する。
学習記録	(1) 普段何気なく飲んでいる「お茶」も、最初は貴族や僧侶などの限られた人た ちの飲み物であったことや、庶民において茶の木の代用として、柳の葉っぱ等 を活用していたことを学んだ。千種では、山に行く地域で「オチャヤナギ」 と呼ばれる木が今でもたくさん生えている。 (2) 学校農園(学校裏の茶畑)で、お茶の木の「新芽」を摘む作業から入った。 約1時間は「茶摘み」体験。その後、用務員室の大釜で煎り、外で製茶専用 の「むしろ」で揉む作業を行った。 (3) 千種では、今でも各家庭でお茶を作っている例が多く、生徒たちは小さな頃 からおじいさんやおばあさんからお茶の製法について見よう見まねで教えて もらっていたことを、作業をしながら話したりしていた。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・茶摘みは初めての体験でした。葉を揉むときにとってもいい匂いがして、お茶が飲みたくなりました。 ・最初、摘んで良い葉と摘んではいけない葉を見分けるのが分からなかったけど、それもだんだん分かってきました。揉むのも摘むのもとても楽しかったです。 ・家で何回かしたことがあるけど、久しぶりでした。お茶揉みは初めてで、すごく楽しかったけどめっちゃくちゃしんどかったです。また家でもやりたいです。 ・お茶摘みとお茶を揉んで楽しかったけど疲れました。普段飲んでいるお茶のありがたさを身にしみて感じました。飲むのが楽しみです。 ・これまで、ドクダミやゲンノショウコ、それから桑の葉などを家で乾かしてお茶にして飲んだことはあるけれど、茶摘みから入って、煎って、茶葉を揉むというのは初めてでした。このようにして昔から家でお茶を作ってきたんだな、ということがよくわかり、とても勉強になりました。
	 

(6) 第6回千種学講座

実施日時	5月27日(月) 15:30~16:00
主 題	宍粟特産3尺胡瓜づくり
授 業 者	田中康夫
受講生徒	3年生 22名
目 標	宍粟特産3尺胡瓜について学び、廃れつつある宍粟特産胡瓜の復活を期して、学校農園での栽培を行う。
学習内容	<p>(1) 千種の地場産業の変遷について考え、その歴史を学ぶ。</p> <p>(2) 宍粟特産3尺胡瓜がいつ頃どのようにして生まれ、千種町で栽培されるようになったのかについて学ぶ。さらに、その特殊な胡瓜がなぜ今は市場に出回っていないのかということについても学ぶとともに、その復活をかけて今懸命に取り組んでいる人たちの想いについても学び取る。</p> <p>(3) 3尺胡瓜の種を実際に学校農園の畑にまき、土をかけて芽が出るのを待つ。</p> <p>(4) 約1週間で芽が出てくるので、交替で水やりを続けていく。</p>
学習記録	<p>(1) 「リビング姫路」(2010年7月24日)の記事を読んで、「3尺胡瓜」が宍粟特産の「伝統野菜」であることを知った。また、昭和25年に安富町で導入された「大和3尺胡瓜」が元となって、昭和32年に「宍粟3尺胡瓜」が誕生したことを学んだ。昭和45年頃には「日本一の胡瓜」とも呼ばれ人気を博したが、曲がりやすいことや消費者の嗜好の変化によって、その後市場から姿を消したとのことである。講師の田中さんは、約60年にわたって栽培を続けられ、種を保存する活動を行いつつ、復活の日を待ち望んでおられることを知った。</p> <p>(2) 「復活」の願いのこもった「種」を協力して学校農園の畑にまき、土をかける作業を行った。約1週間後に芽が出て、その後は水やりを行った。</p>
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・千種の胡瓜はすごいと思いました。また、育つ地形も大切だということを知りました。 ・昔から歴史のある3尺胡瓜のことを教えてもらえたとし、胡瓜の形の見分け方なども分かったので良かったです。 ・私の家でもおじいちゃんが胡瓜を作っているけれど、胡瓜の植え方は知りませんでした。だから、今日教えてもらえて良かったですし、大事に育てたいです。 ・ぼくは胡瓜が大好きです。漬け物も好きなので、この3尺胡瓜の漬け物を食べてみたいです。愛情を込めて植えたので、早く育てて食べるのが楽しみです。
	 

(7) 第7回千種学講座

実施日時	6月6日(木) 13:15~15:05
主 題	柏もち作り(「ばたこ」について)
授 業 者	植田美代子、椴木幸代
受講生徒	3年生 22名
目 標	千種に伝わる「ばたこ」作りを通して、郷土料理の豊かさを感じ、千種の食文化が地域の歴史と心を伝えていることに気づく。
学習内容	(1) 田植えの協同作業のもてなしとして、また日常の子供のおやつとしてよく作られていた「ばたこ」(柏餅)。昔の千種の食文化について考える機会とする。 (2) 「ばたこ」作りのための材料が、すべて身の周りの田や畑、そして山で採れるものばかりであることに注目する。 (3) 講師の方の手さばき、味加減、湯がき方…等の技術を観察し、出来得る限り「まねる」ことで、「おふくろの味」・「千種伝統の味」に迫る努力をする。
学習記録	(1) 準備されたものは、①柏餅粉、②小豆(こしあん・つぶあん)、③よもぎ、④塩、⑤すり鉢、⑥すりこぎ、⑦笹の葉、⑧柏の葉、⑨鍋、⑩角バットであった。 (2) 最初に、湯を沸かしておいて、その中に塩を入れて笹と柏の葉を湯がいた。 (3) 次に、柏餅粉に水を混ぜて練り、棒状にしたものを約3センチごとに切って沸騰したお湯の中に入れる。浮いてきたら取り出してすり鉢に入れ、すりこぎで叩いて伸ばしていく。(餃子の皮のように丸い皮状にする) (4) 伸ばした皮にあんこを入れて、丸めて、柏の葉っぱにくるんで出来上がり!
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、家でおばあちゃんが作ったのを食べるだけで、手伝ったり教えてもらったことがないので、すごく勉強になりました。茹でたものをつぶすのは力が要って大変だったけど、思っていたよりも簡単に出来ました。今度は家でおばあちゃんと一緒に作ってみたいです。 ・今日、僕は初めて柏餅を作りました。柏餅を湯がくのなんて初めて知りました。柏の葉も湯がくと色が変わり、いつもの柏餅にまいてある葉の色になりました。できた柏餅はとてもおいしかったです。ありがとうございました。 ・初めて柏餅を作りました。くず餅やおはぎは作ったことはあったけれど、柏餅はどうやって作るか知らなかったので、よくわかってよかったです。作るのも楽しかったけれど、食べてみると、とてもおいしくて良かったです。 ・私は「ばたこ」と聞いて最初「何それ!？」と思っていました。でも柏餅のことだと教えてもらい、そんな名前もあったのかとすごく驚きました。よもぎ餅を作る時の順番や、餅をお湯から上げる時のタイミングなど、たくさん知ることができました。すごくおいしかったです。
	 

(8) 第8回千種学講座

実施日時	6月15日(土) 10:50~11:40
主 題	学校周辺の文化財から千種の歴史を学ぶ
授 業 者	上山明
受講生徒	3年生 22名
目 標	学校前庭の「河呂大森(弥生)遺跡」、戦国時代の宇野氏にまつわる「お塚さん」、農村歌舞伎舞台を実地調査し、豊かな文化財について学ぶ。
学習内容	(1) 千種中学校前庭の竪穴式住居址やその出土品から古代の千種町の姿について考え、歴史のあけぼのの時期について学ぶ。 (2) 「お塚さん」即ち「宇野氏主従墓所」のいわれについて学び、5月に登山した笛石山との関連について考える。 (3) 千種町内各所に点在する石碑や墓石、更にはお寺や神社のいわれに興味を抱き、自ら地元の歴史について考えて行こうとする態度を育てる契機とする。
学習記録	(1) 『千種町史』(昭和58年5月発行)の古代編「ちくさのあけぼの」の資料を基に、大森弥生遺跡から出土したものについて学習するとともに、当時の千種の姿やそれ以前の縄文期の様子について学んだ。 (2) 『播磨国風土記』に記載されている「敷草村」の様子について学び、「百草」「千草」などの言葉とともに千種町が歴史豊かな土地であることを知った。 (3) 豊臣秀吉の播磨攻略の様子について学習するとともに、長水城の落城が宇野氏主従の悲しい結末の始まりであり、更には笛石山の名前の由来ともなったことを学んだ。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の周りにそんなに昔の遺跡があるなんて知りませんでした。 ・ 河呂大森遺跡には、いろいろな歴史が詰まっているんだなと思いました。 ・ お塚さんや宇野一族のことは全然知りませんでした。笛石山のことなどいろいろ知れて良かったです。 ・ お塚さんは小学校のときに個人で調べました。中学生になって今日の千種学でもう一度聞いて千種の戦国時代のことがよく分かりました。 ・ 昔、土器がたくさん出てきたのに川に捨てたのはとてももったいないと思いました。また、千種でこんな大きな事件があったなんてビックリです。たくさんの事が知れたけど、もっともっとたくさんの事が知りたいです。 ・ 子供の頃から、千種町内には道路端や田んぼの中にいろんな石碑や道しるべがあって、何だろうなと思ってきました。町内には古いお寺や神社も多いし、今日の勉強をきっかけにして、もっと調べてみようと思いました。
	 

(9) 第9回千種学講座

実施日時	6月20日(木) 13:15~15:05
主 題	陶芸教室
授 業 者	当麻嘉英
受講生徒	3年生 22名
目 標	千種に窯を築き、30年以上活躍されている陶芸家より陶芸の基礎と陶芸の喜びを学び、地域の文化の奥深さと可能性に気づく。
学習内容	(1) 本校技術室を会場に陶芸の基礎を学び、陶器のカップ作りに挑戦する。 (2) 土の感触や固さなどを手先指先で感じ取りながらカップの形を整えていき、自分の思い描く通りに出来るか或いは出来ないかということを感じ取る。 (3) 「難しいから面白い」という当麻先生の言葉を噛みしめつつ、造形芸術の奥深さについて学ぶとともに、「ものづくり」の醍醐味に触れる機会とする。
学習記録	(1) 各自エプロンを着用し、本校技術室で当麻先生の説明を聞き、その手さばきや指さばきに注目しつつ、各自作り上げるカップについて創意を巡らせた。 (2) 各自与えられた量の土を練って手に馴染ませ、ろくろ台の上に置いて蛇がとぐるを巻くようにして細長く土を積み重ねていき、カップの形に近づくように整えていった。 (3) 上方から横から斜めから覗みつつ、指先に神経を集中させて各自カップの形を慎重に作り上げ、ろくろを巧みに回しながら更に形に磨きをかけ、取っ手もつけて完成させ、考えておいた自分のイニシャルを入れ、作業を終えた。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> 初めて僕は陶芸をしました。最初の土台となる部分から完成するまで、難しいことがたくさんありました。段々と形ができ、難しそうな動作が来るとドキドキしながらしました。初めて作ったにしては満足できるものができました。 今日は初めて陶芸をさせていただきました。当麻先生が作られているのを見て、魔法の指先だなと思いました。先生が言われた「難しいから面白い」の言葉そのままでした。これからも難しいことにチャレンジしていきたいです。 陶芸をするのは初めてだったけど、中々上手にできたのでよかったです。まず底を作る時は、ヘラの角度が違ってうまくできませんでした。でも、教えてもらってしてみると結構簡単にできたので、嬉しかったです。僕も岩野辺に住んでいるので、もう一度行ってみたいと思いました。 今日は7回目の陶芸教室でした。約2年ぶりにやってみて、「やっぱり難しいな」と思いました。でも楽しく納得のいくものができて良かったです。今度は「つぼ」を作りたいです。今日は本当にありがとうございました。
	 

(10) 第10回千種学講座

実施日時	6月28日(金) 13:15~15:05
主 題	ふれあいゲートボール
授 業 者	八田亀治(岩野辺)、河野義春(河呂)、各地区老人クラブの皆さん
受講生徒	3年生 22名
目 標	地域の高齢者とゲートボールを楽しみ、親交を深める中で、千種の歴史を生き抜いた人生の先輩の話を聞き、千種を考え自己を省みる機会とする。
学習内容	(1) 岩野辺・河呂の各ゲートボール場に分かれてゲートボールを実施。 (2) 各会場でゲートボールのルール説明を聞く。 (3) ゲートボールを通じてお年寄りの会話を楽しみ、世代間の交流を図る。
学習記録	(1) まず、各会場で生徒の代表があいさつをした。 (2) 岩野辺会場では八田さんが、河呂会場では河野さんがお話をされ、ゲートボールの魅力やその活動を通じて高齢者同士の良き交流の場となっていること、健康維持に非常に優れた無理のないスポーツである点などを語られた。 (3) ルールの説明があった。 (4) 競技を開始。約30分間のゲームを2試合共に楽しんだ。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・今日初めてゲートボールをしました。グラウンドゴルフはしたことはあったけれど、ゲートボールは初めてで、「どんなかな」と思いながら始めました。スティックの使い方が難しかったけれど、やるのはとても楽しかったです。地域の方ともいっぱい話せたし、わかりやすく教えていただいてよかったです。 ・今日はゲートボールで、初めてだったのでとても楽しみでした。練習をしてから試合に入ったのですが、第1ゲートを通るのに時間がかかりました。とても難しかったのですが、楽しかったです。またゲートボールをしたいです。 ・私は岩野辺の方でした。最初は全然ゲートに入らなくて、一人特訓をしました。練習の時には10回連続で入ったりしていたのに、本番になると際どい所ではずれてすごく悔しかったです。でも2回戦目は1回で入ったので、すごく嬉しかったです。時間があつたらもう一度やりたいです。 ・ゲートボールをしたことはあったけれど、ルールはよく知りませんでした。初めはまっすぐに打てなかったけれど、おじいさんやおばあさんに教えてもらって打てるようになりました。それに、次はここに打つたらいいとかアドバイスをたくさんしてもらいました。頭の中で考えておられてすごいなと思いましたし、とても楽しそうで、すごく元気だなあと思いました。
	 

(11) 第11回千種学講座

実施日時	7月4日(木) 13:15~15:05
主 題	千種の将来を担う君たちへ
授 業 者	今井和夫
受講生徒	3年生 22名
目 標	過疎化と少子高齢化が急速に進む千種にあって、将来への夢を育み、生活の場としていける地域の在り方を有機農業を推進する立場から考える。
学習内容	(1) 昭和39年と平成25年の千種町の人口を比較する。 (2) 千種中学校の全生徒数についても比較する。 (3) 千種町における産業構造の変化について考え、農業が果たす役割と安心・安全な食の確保がいかに大切であるかということについて学ぶ。
学習記録	(1) 田舎と都会のどちらに住みたいか、という問いが投げかけられ、考えた。 (2) 農業が如何に大切であるかということについて学んだ。また、その農業を犠牲にして工業の発展が日本国中で行われたという歴史的経緯について学んだ。 (3) 現代日本の「食料自給率」の現実と、世界の農業と比較して日本の農業が如何に貧しく危険であるかを知り、「食の安全保障」ということについて考えた。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも今井さんのお話は面白いので好きです。農業の話が主体だったのですが、どの話題も聞きやすくすごく楽しかったです。私が一番びっくりしたのが、千種の人口です。約3,300人ってすごく少ないなと思いました。でも、人口が少なくても明るい千種が、私は好きです。 ・今日の千種学で、千種に残りたいと思いました。でも今の千種では、仕事が減っていて、その理由の一つが、国は農業を犠牲にして工業の発展をしてきたということでショックを受けました。今の僕たちはいい生活ができていますが、これからどこかでピンチが訪れると思うとぞっとしました。 ・今日は農業の大切さがよくわかりました。私は今まで田んぼや畑を手伝うということはほとんどなかったので、これから食料がなくなった時のことを考えると本当に怖くなりました。だからこれからは、田んぼはありませんが、家の畑の手伝いを少しずつでもして、身につけておきたいと思います。 ・今日の講話で、昔千種には土建業や大工を中心とする仕事がたくさんあったなんて驚きました。今では大分少なくなっている仕事なので、千種に残って仕事をしていきたいと思います。今日はありがとうございました。 ・今日の講座で、昔の人がしていたことをしっかりせなあかんと思いました。毎日食べているごはんがどれだけ大切わかりました。これからは食べ物を大切にしたいです。今日はありがとうございました。
	 

(12) 第12回千種学講座

実施日時	7月12日(金) 13:20~14:40 (千種高校体育館)
主 題	宍粟・千種を探検しよう! (中高連携講演会)
授 業 者	須磨岡輯
受講生徒	千種中学校・千種高等学校全生徒・両校教職員・地域の方々
目 標	千種の自然・文化・産業について多角的な視点から学ぶ「千種学」講座を中高連携の形で行い、千種に対する理解を深める機会とする。さらに、宍粟は勿論兵庫県内の山々や峠に関する数々の著作があり、今も健脚を誇って兵庫県内外の山を踏破されている須磨岡先生から直接話を聞く貴重な機会とする。
学習内容	(1) 高さの基準や経緯度の基準、及び三角点の意味について学ぶ。 (2) 赤穂に始まる岡山・鳥取・兵庫県境を踏破するプロジェクトについて知る。 (3) 千種にある主な山々について再認識するとともに、登山のポイントを学ぶ。
学習記録	(1) 兵庫県内には三角点が3068カ所あって、一等は21、二等は107、三等は806、四等は2134カ所あり全国9位の多さであることを知った。 (2) 現在、登山仲間の人たちと共に兵庫県と岡山・鳥取県境の尾根を踏破していくプロジェクトが続けられており、丁度この7月下旬には後山あたりを歩かれていることを知り、驚いた。 (3) 千種町の四方を囲む4つの峠(鳥ヶ峠・塩地峠・志引峠・江浪峠)についての説明も配布資料に基づいてあり、峠の意義について考える機会となった。 (4) 地元の山々で、毎日目にしていても中々登ったことのない、日名倉山・後山・笛石山・植松山・三室山について写真を提示しながら説明をしていただいた。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は、講演会をしてくださりありがとうございました。三角点などの話は少し難しかったけれど、写真をたくさん見せていただいたり、説明をしていただいたりして、とてもきれいなところがたくさんあったし、自分はこんなにもたくさんきれいな山に囲まれて暮らせて幸せだと思いました。 ・須磨岡先生は、かなりお年だということなのですが、今も岡山や鳥取県との境の尾根を歩いておられるということを知ってびっくりしました。また、写真で見せていただいた、県境を示す岩があるという説明には、あんなものは見たことがなかったので驚きました。是非探しに行ってみたいです。 ・今ではかなりいい道になっていますが、千種町を囲む4つの峠はどれももっと狭かったと思います。でも、千種からたくさん鉄やお米などがその峠を通過して町外へ運ばれ、また、いろんな物が千種の中に運び込まれてきたことを思うと、何か不思議なありがたい気持ちにもなりました。 ・須磨岡先生は、もう75歳ぐらいになられているのにたくさん山に登っておられて凄いと思います。私もせめて今度は日名倉山に登りたいと思います。
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

(13) 第13回千種学講座

実施日時	10月2日(水) 13:15~15:05
主 題	手漉和紙づくり (於:千種町河内 播州ちくさ手漉和紙工房)
授 業 者	吉留新一、吉留真弓
受講生徒	1年生 30名
目 標	千種でかつて盛んであった手漉和紙づくりの歴史と技術を学び、千種が育んだ文化に触れる。「播州ちくさ手漉和紙」づくりを体験する。
学習内容	(1) 和紙の原料と雁皮紙の製造工程について学ぶ。 (2) 千種町における和紙づくりの歴史について学ぶ。 (3) 実際に手漉和紙づくりを体験する。
学習記録	(1) 和紙の三大原料は、楮(こうぞ)・三極(みつまた)・雁皮(がんび)。 製造工程は、収穫→皮剥(は)ぎ→川晒(さら)し→煮熟(しゃじゆく)→釜上げ→川晒し→塵(ちり)より→叩解(こうかい)→紙漉き→圧搾(あっさく)→紙干し→乾燥→選別。 (2) 千種町で和紙づくりが始まったのは奈良時代。その和紙は「播磨紙(はりまのかみ)」と呼ばれていた。町内室(むろ)の西方寺には、享保14年紙漉き職人紙屋助左衛門らが発起人となって建立した供養塔が現存している。 (3) 吉留氏の説明に続いて各自紙すきを体験。半紙と葉書大の紙の2種類を作成。葉書用の紙には模様を入れた。この後乾燥して2週間後に届いた。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> 今日の紙すき体験で初めて知ったことは、紙は作るのにとっても手間と時間があるということです。僕たちが普段普通に使っている紙や半紙などは、大切に使用しなければいけないと改めて感じました。 今日手漉き和紙づくりを体験しました。吉留さんに教えてもらった通りにできて、とても嬉しかったです。体験したのは、半紙とハガキの2種類です。2週間くらいすれば乾燥してできるので、とても楽しみです。 今日の紙すきは、とても嬉しかったです。原料がどろどろしていて、まさかこんな物から紙ができるとは思いませんでした。普段使っている紙が、こんな作られ方をしているのかと驚きました。早くでき上がった紙を見たいです。 紙すきは初めてなので、小さい紙を作る時はとても緊張しました。自分が思っていたのよりも和紙が入った水は濁っていました。大きい紙を作って模様をつける時は、星にしたかったけど、花になってしまいました。でも、とてもいい作品ができました。
	 

(14) 第14回・第18回・第21回千種学講座

実施日時	10月4日(金)、10月31日(木)、11月20日(水)、11月27日(水)
主 題	たたら製鉄学習(1)～(4)
授 業 者	鳥羽弘毅、河野寛二、上山明、日平閑次、堂場政彦、岸蔭吉保
受講生徒	2年生 32名
目 標	たたら製鉄学習の概要を学び、たたら製鉄への関心を深め、歴史教材により先人の知恵と技術を学ぶ。また、「宍粟鉄を保存する会」のご指導のもと、地元で採集した砂鉄を使った製鉄実習とたたら製鉄に関する歴史学習を古来よりの製鉄場跡である「天児屋鉄山」で実施する。後日、体験をまとめて発表会を開く。
学習内容	(1) 現在の製鉄と「たたら製鉄」の違いについて学ぶ。 (2) 千種町における「たたら製鉄」の歴史について学ぶ。 (3) 砂鉄の収集から「たたら製鉄」の実習を通じて先祖の知恵と技術を学ぶ。
学習記録	(1) 10月4日に上山先生の講義を聞き、現在の西洋式製鉄技術では原料に鉄鉱石を用い、これを燃やすために石炭やコークスを用いているが、「たたら製鉄」においては原料として砂鉄を用い、これを燃やすために大量の木炭を用いていたことを学んだ。また、「天児屋鉄山」を例にとり、たたら場での組織・製鉄の工程、大工場での仕事内容や他地域との繋がり等について学んだ。 (2) 10月31日には、「たたら里学習館」横の広場を会場に「たたら製鉄実習」を行い、「宍粟鉄を保存する会」の方々のご指導のもと、夏休みに自分たちで集めた砂鉄を用いて製鉄実習を行った。 (3) 11月20日・27日には、学習のまとめとして感想文集と班新聞を作成し、その成果を他学年生徒及び地域に発信できるようにした。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・今日たたら製鉄実習をしました。午前中は遺跡を回ったり話を聞いたりしました。難しい話でしたが、少しはわかりました。午後は、砂鉄を投入しました。1000℃以上ある炉の中に砂鉄や炭を入れるのは、とても熱かったです。ケラ出しの時は、見ているだけでもめっちゃ熱かったです。でも、いいのができたので良かったし、いい体験ができました。 ・たたら実習は、僕はすぐに終わるだろうと思っていました。でも、いろんな工程に分かれて粘土を作ったり炭を切ったり、砂鉄と炭を入れたり、大変な作業だったけど、楽しかったです。 ・今日のたたらは、鉚(けら)出しなどとても楽しみでした。でも、思っていたよりも熱くて、腰が痛かったです。でも、ノロを見てドロドロしていてきれいでした。また、使う道具は全部重くて、昔の人はすごいと思いました。ちょっと失敗気味(?)だったけれど、鉚も出たのでよかったです。
	 

(15) 第15回千種学講座

実施日時	10月16日(水) 13:15~15:05
主 題	絵手紙づくり
授 業 者	金本勉
受講生徒	1年生 30名
目 標	絵手紙の指導をしていただく地域の野菜生産者の方から、地域の野菜について学ぶ。そして、収穫した野菜や果実を使って絵手紙を描く。
学習内容	(1) 地域で採れる野菜について学び、野菜作りの意義についても学ぶ。 (2) 野菜の特徴のとらえ方について学び、描き方のポイントをつかむ。 (3) 野菜や果物・果実を題材にして絵手紙用のハガキに絵を描いていく。
学習記録	(1) 金本先生が用意された、葉やつるのついたサツマイモ、そして鳥居先生が用意された、いが付きの栗、葉や枝がある柿、かぼちゃ、葉や枝があるイチジク、紅葉した木々の葉をそれぞれ手に取り、千種の里の恵みを再認識した。 (2) 金本先生の模範作品を見ながら野菜や果実の描き方をつかむとともに、どのような表情の絵を描きたいかということについて構想を練った。 (3) 絵筆と絵の具を手にとって、絵手紙用ハガキに果物や野菜の絵を描いていった。形のとらえ方、微妙な色合いの作り方なども学ぶことができた。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は、初めて絵を描くことが楽しいと思いました。いつもは、皆とかけ離れて下手で、笑われていたけれど、今日は自分の絵を描けたので楽しかったです。僕は、この体験から自然の事をたくさん学びました。 ・簡単そうに見えて、鮮やかな色を出すには濃くなったり薄くなったりして、とても難しかったです。でも、先生に教えてもらえていい作品ができました。 ・小学生の時も1回ぐらい金本先生に教えてもらって、今日はどんなかなと楽しみでした。美術室に入ると色んな野菜とかがあって、さらにわくわくしてきました。描いてみたら難しかったけど、きれいなのができて良かったです。 ・消しゴムなしで描くのは難しかったけれど、結構いいのができて良かったです。色をつけるのに、どういうふうにするのかわからなかったけれど、教えてもらったので、いいように塗れました。また家でも描いてみたいです。 ・祖母がたまに送ってくれる絵手紙を見て、私も描いてみたいと思っていたので、とても嬉しかったです。祖母のようにほんわかとした絵が描けるのか不安でしたが、私にも描けてよかったです。描けた絵手紙を祖母に送ります。
	 

(16) 第17回千種学講座 (第16回「花いっぱいボランティア」は雨天により中止)

実施日時	10月30日(水) 10:35~11:25
主 題	国際感覚を養う
授 業 者	磯崎由里香
受講生徒	2年生 32名
目 標	欧米のハローウィン(収穫感謝祭)を題材とし、異文化への関心を高め、英語を世界でのコミュニケーションの手段として使うことの喜びを体験する。
学習内容	(1) 外国の祭(ハローウィン)について学び、日本の祭と比較する。 (2) 日本語について方言を例にして、言語の習得法について考える。 (3) 英語の歌を用いてリスニングを体験し、聞き取れる喜びを体験する。
学習記録	(1) ハローウィンの「Trick or Treat!」で挨拶をした。 (2) ハローウィンについての説明を聞き、日本の祭との共通点・相違点を知った。 (3) 磯崎先生お手製のお菓子(パンプキンケーキ)をいただき、ジュースを飲みながら文化の違いについて想いを巡らせた。 (4) 磯崎先生と鳥居先生による昔なりの「千種弁」の会話を聞くが聞き取れず、意味を教えてもらった。[千種弁] ちゃ やぁ、鳥居先生。へとくと へとくと 食べんと、ちいと たーぼーて 食べなあかんで。[意味] あーもう、鳥居先生。たくさん たくさん 食べないで、少しずつ 大切に 食べないとあかんで。 (5) 英語の歌「サンタが街にやってくる」(Santa Claus is Comin' to Town)を聴きながら、英語のリスニング演習を行った。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・今日、千種学で太一君のお母さんが来て、「ハローウィン」について教えてくださいました。英語を覚えるコツや意味がよくわかったので良かったです。 ・ハローウィンパーティー楽しかったです。ケーキもおいしかったし、英語の「クリスマス」の歌は、何回も聴くことによって耳に残って、授業の後少し口ずさめるほどでした。「クリスマス」の時もやってもらいたいなと思いました。 ・今日は千種学で、磯崎先生のもと、ハローウィンパーティーをしました。パーティーでは、ケーキやお菓子などをいただきました。とてもおいしかったです。またこういう授業があるといいなあ。(リスニングを含めて…) ・今日のハローウィンパーティーとても楽しかったです。外国の文化もわかったし、歌で英語を聴きとって楽しく覚えることができたので良かったです。 ・【磯崎先生からのメッセージ】皆さんは、日本人としてこの千種に住んでいます。自分の母国語(日本語)を大切にし、しっかり習得するよう心がけましょう。英語はあくまでも道具として使いこなしていきましょう。
	 

(17) 第19回千種学講座

実施日時	11月6日(水) 13:15~14:05
主 題	千種の植生
授 業 者	藤原誠
受講生徒	2年生 32名
目 標	千種町は、恵まれた自然環境の中で、豊かな植生を形成している。千種の間々と千種川周辺の植生を学び、郷土の自然を大切にすることを育てる。
学習内容	(1) 千種の森と川と海と私たちの大切な関係について学ぶ。 (2) 千種にある美しいもの、珍しいものについて学ぶ。 (3) 人工林の問題について学ぶとともに、森の果たす重要な役割を知る。 (4) 歴史的・自然環境的に貴重な町「千種」に生き、行動を起こす勇気を得る。
学習記録	(1) 1ヘクタールの森が出す酸素で60人が生きていける。 (2) 広葉樹林と杉檜の針葉樹林とでは、針葉樹林の方が多くの酸素を出す。 (3) 自然林・人工林・混合林の中で、今人工林の手入れが為されず大きな問題となっている。混合林を増やしていくことが肝要である。他多くの事を学んだ。
感 想	<p>・先生のお話の中で一番驚いたのは、1haの森林の中で人間が生きていけるのは60人だということです。その倍は生きられると思っていました。また、針葉樹と広葉樹とでは、針葉樹の方が多く酸素を出すということも驚きました。</p> <p>・僕が一番心に残っているのは、人工林が雨や風で森の中に倒れていた写真です。もっと山の掃除をしたらきれいになるのにと感じました。林業をする若者たち(僕を含めて)が減っているからしょうがないのかなあ。</p> <p>・人間は植物のお陰で呼吸ができていて、植物は本当に大切なものなんだと思いました。また、「千種」は植物がたくさんあるので幸せだなと思いました。私もこの「千種」を守りたいし、自分にできることをやろうと思いました。</p> <p>・私は岩野辺から河呂までどこでもいいのですが、ロープを引っ張ってターザンみたいにしてほしいです。そんな施設を作ることで、「千種」が有名になってほしいです。子供も大人もたくさんの方が来てくれることを願っています。</p> <p>・自然を守ることを改めて考えたり、それを行動に移すことが大切だと思いました。自然の事を調べてマンガにまとめた坪田愛華さんのように、アクションを起こすことをできるように頑張りたいと思います。</p> <p>・自然が壊れつつあるということを今日改めて知りました。植えたままでほったらかしにされた人工林は荒れて、土砂崩れなどの災害につながります。海にも影響が出て、魚が獲れなくなることも知りました。それはこの日本だけではなく、地球全体で起きていることだということを知ってショックを受けました。</p>
	 

(18) 第20回千種学講座

実施日時	11月13日(水) 10:35~11:25
主 題	今の中学生に願うこと
授 業 者	石神周山
受講生徒	2年生 32名
目 標	故郷を愛し、世界にも目を向け、これからの自分の生き方を考えていく。
学習内容	(1) 人は何のために生きているのか、ということについて考える。 (2) 人がこの世に誕生する意味や、生きていく使命について考える。 (3) 幸せになるためには、どのような事をしたらいいのかということを考える。
学習記録	(1) 人の一生は、宇宙からするとほんの一呼吸である。一呼吸の人生をどのように生きたらいいか。人は何のために生きているのか。→ 幸せになるため。 (2) 幸せになるには、①自分の好きな事を見つける。②人のいいところを見る。 (3) 「天上天下唯我独尊」— 天の上にも下にも、唯我々人間だけが果たせる尊い使命がある。～お釈迦様の言葉～
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の千種学は、とてもいい話をされました。僕は今まで人の悪い所ばかり見ていました。でも、今日人の良い所を見ようと思いました。それに立方体を下から見られるようにしたいです。 ・人生は物事の見方で変わるという言葉がすごく印象に残っています。素直に人生を楽しく生きていきたいと思います。僕は今のところ楽しいと思えているし、好きな事もあるので、良い話も聴けたし幸せです。 ・先生のお話の中で、立方体を見て私はある一方でしか物事を見ていなかったことに気づきました。少し見方を変えるだけで、色んな事が変わりました。いつも何でも悪い方へと考えてしまうので、その意識を変えたいです。 ・人のいいところを見ると、自分もいいように見られるし人生は楽しいと思うことが大事だし、物事の見方をちょっと変えるだけで楽しいと思えるようです。嫌いな事でも、見方を変えていきたいと思います。 ・世の中のほとんどの人は物事をマイナス思考に考えるけど、見方を変えればあわせな人生にできるということが分かりました。人はなぜ生きているのかなあと、僕も考えたことがあるんですが、「しあわせになるため」と聞いて確かななあと思いました。しあわせな人生にしたいです。 ・今まで「死」は余り考えたことはなかったけれど、お話を聞いていつ「死」が来るかわからないから、一日一日を楽しく生きるということを意識していきたいと思いました。悪い方へと考えずに、いい方へ楽しい方へと考えたいです。
	 

(19) 第22回千種学講座

実施日時	11月20日(水) 10:35~11:25
主 題	千種の観光
授 業 者	高橋大樹
受講生徒	2年生 32名
目 標	ちくさ高原の四季の美しさを再発見し、これからの千種の観光について考え、地域を愛する心を育てる。
学習内容	(1) ちくさ高原の開発計画及び今年度の成果について学ぶ。 (2) 千種町の魅力について考え、再発見する機会とする。 (3) 千種の魅力を如何に発信し、観光開発を進めるべきかについて考える。
学習記録	(1) 夏の「ちくさ高原ゆり園」と冬の「ちくさ高原スキー場」(スノーボード解禁)で、観光客及びスキー客等が大幅に増え、大きな成果があったことを、直接の事業担当者である高橋様から聞かせていただき、多くのことを学んだ。 (2) 少子高齢化により人口減少の進む千種町の現状について再度考えるとともに、互いに知恵を出し合い、何らかの行動を起こすことが千種町を発展させるきっかけとなることを学んだ。 (3) 新たな行動(観光開発等)の要諦として、如何に独自性を発揮するかということが大事であることを学んだ。いわゆる「人まね」では決して勝ち残っていくことは出来ないということを知り、大きな意義のある講座であった。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・私はこの町を良くしたい!とか考えたことはありませんでした。でも今日の話聞いて現実を改めて知り、このままじゃダメなんだと思ったし、どうにかしてこの町を変えたいと思いました。 ・高橋さんは人のやらないことを考えていて、僕も大人になったら色々考えて千種をもっと良い地域にしたいです。これからも、スキー場だけじゃなくて、千種全体をよくしたいです。 ・千種のいいところは?と聞かれるとたくさんあるけれど、それが、県内・県外の人に知られているかどうかというと、知られていないと思います。今以上の町ができて人口がもっと増えて欲しいなと思いました。 ・千種は自然がたくさんで、とてもいい町だけれど人口が多くないです。今の私たちがみたいに若い人が考えをいろいろ出して、現在ない物を作ってたくさんの人に千種に来て欲しいです。マネをせず、自分たちで考えることが大事です。 ・僕はこの千種が好きなので、将来も千種に住んで千種で一生過ごしたいと思います。また、千種に関係のある仕事をしたいと思っているので、今日の話は本当に良かったです。いろんな考えを出して、最高の村にしたいと思いました。
	 

(20) 第23回千種学講座

実施日時	12月6日(金) 8:30~15:00 (於:町内各地区公民館等)
主 題	ふれあい しめ縄づくり
授 業 者	千種町内各自治会老人クラブの皆様
受講生徒	各自治会千種小学校児童・千種中学校生徒、各自治会担当千種小・中教職員
目 標	老人クラブの方々の指導のもと、千種に伝わる伝統文化(しめ縄づくり)を学び、心のふれあいや交流を通じて、創造的な能力・態度を育成する。
学習内容	(1) 13の自治会ごとに公民館等に集合し、それぞれ開会式を行う。 (2) 老人クラブの皆様のご指導により、しめ縄づくりを行う。 (3) 老人クラブの皆様の手料理をいただき、語らいながら昼食をとる。 (4) 自治会ごとに交流会を行い、小中交流・異世代間交流を楽しむ。
学習記録	(1) 縄を「なう」基本的な技、「右なえ」・「左なえ」について学んだ。 (2) しめ縄の「めがね」型・「ごんぼ(ごぼう)」型の両方を作り、お土産(正月用の飾り)として各家庭に持ち帰った。 (3) 稲「わら」の大切さや昔の草履・長靴はわらでできていたこと、そして、それらを各家々で作っていたことを学んだ。 (4) 各自治会老人クラブのおばあさん方お手製の料理に舌鼓を打ち、昔のいろんな話を聞きながら昼食を楽しんだ。 (5) 昼食の後、老人クラブのおじいさん・おばあさんから昔話や遊びを教えてもらい、ゲームをして小中の児童・生徒が一緒になって交流の場を持った。
感 想	<p>・僕は、しめ縄をするのは初めてでしたがとても楽しかったです。大きいのとめがねあって、大きい方を先にやりました。1人が支えて3人がねじるやり方でやったのですが、みんなの息を合わせないとできないので難しかったです。</p> <p>・今年は初めて小学生も加えたしめ縄づくりで、人数が増えたり小さい子がいるので少し不安でしたが、とても楽しいしめ縄づくりになりました。</p> <p>・めがねを作ったのですが、技が必要で、段々ときれいに作れるようになっていきました。これも千種の伝統の1つなので、しっかりと受けついでいきたいです。おじいちゃんやおばあちゃんの手際の良さには驚きました。</p> <p>・去年ちゃんと作ったんですが、完璧に忘れてしまっていて、近くのおじいさんに少しずつ教えてもらいながら縄をなっていました。そうしていると、前にやったのを少しだけですが思い出し、結構上手くめがねを2つ作れました。</p> <p>・近所に住んでおられるおじいさん・おばあさんとお話をしながら「なう」方法を教えてもらいながら楽しくできたので良かったです。それと、昔は「稲わら」で草履も靴も長靴も作っていたので、昔の人の技は凄いなと思いました。</p>
	 

(21) 第24回千種学講座

実施日時	12月18日(水) 13:15~15:05
主 題	千種の企業から学ぶ
授 業 者	牧瀬秀之、鳥居史郎
受講生徒	2年生 32名
目 標	地元企業の企業理念と事業内容を学び、千種と日本及び世界との繋がりを考える。地元企業が職場提供と地域振興に貢献する実情を学び、地元での進路実現の可能性を考える。
学習内容	(1) 日本フレックス工業株式会社(牧瀬様)と株式会社プラントリイ(鳥居様)から両企業の創業理念をお聞きする。 (2) 千種町内の企業と日本各地との繋がり、或いは世界との繋がりについて学ぶ。 (3) 地元の企業がどのように地域に貢献し地域産業を高めているかを学び、今後の進路について考える機会とする。
学習記録	(1) 第1部:「地元の企業から学ぶ」 ① 会社の紹介:会社概要、事業内容、技術内容 ② 千種での会社経営について: ・会社と地域との繋がりについて ・千種での事業展開の可能性について (2) 第2部:「千種の将来を考える」 ① 企業の将来について: ・今後の会社の在り方(経営)について ・会社が必要としている人材とは ② これからの社会の担い手である中学生に望むこと (3) 質疑応答
感 想	<p>・プラントリイさんは、東京スカイツリーやディズニーランドでも使われるほどとても大事な物を作っておられ、ニチフレさんでは色んなケーブルを作っておられて、私たちも利用しています。そこで働く人は責任感がある人でなければならないと思いました。</p> <p>・私たちが住んでいる千種に、ニチフレとかプラントリイとか世界を支えている会社があることを知り、千種の誇りだと思いました。私も将来は自分の特技を活かして働きたいと思います。</p> <p>・プラントリイの鳥居さんが、責任感や粘り強さ、正直さのある人材が必要とおっしゃいました。それはどの仕事についても、今の私たちの生活の中でも必要なことです。これらが身に付くように頑張りたいです。</p> <p>・話をしている時の二人の自信に満ちた顔がとてもカッコよかったです。お二人共中学生の時とは違う夢ですが、今の自分に自信があるんだなと思いました。</p>
	 

(22) 第25回千種学講座

実施日時	1月14日(火) 13:15~2:05
主 題	播磨国風土記
授 業 者	堂場政彦
受講生徒	1年生 30名
目 標	風土記とは何かを学習し、播磨国風土記を通して「千種」を学び、「宍粟」の名のいわれも学習する。また、「千種」が古代より鉄の産地として栄えたことについても学習する。
学習内容	(1) 風土記編纂の歴史や現存する風土記について学ぶ。 (2) 播磨国風土記の中の「敷草村(しきくさむら)」を読み、学習する。 (3) 播磨国風土記の中の「宍禾郡(しきわのこおり)」を読み、学習する。
学習記録	(1) 風土記は、713年(和銅6年)5月2日、元明天皇より編纂の勅命が出された。 (2) 風土記編纂の方針5綱目：①各国郡名・郷名の記述、②各国郡内の産物記録、③各国土地の沃せき、④各国地名の起源、⑤古老相伝の旧聞・異事 (3) 現存する風土記：出雲、播磨、常陸、豊後、肥前 (4) 「敷草村」の項：伊和の大神が来られた時、座布団がないので草を集めて敷いた。それで敷草村と言う…鉄も取れる。狼・熊も住んでいる。 敷草→しきくさ→ちくさ→千草(明治22年まで千草村。以降千種村。) (5) 「宍禾郡」の項：伊和の大神が伊和の国を作り、歩き回って矢を射て山や川や谷や峰を決められた。その時、矢田という村で大きな鹿に出会い、その鹿には舌に矢が刺さっていた。それで宍禾(しきわ)と言う。(禾は粟と同義)
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・風土記のことで、今は兵庫県宍粟市千種町となっているけれど、読み方も漢字も今とは全く違っていたので、昔のことがわかってよかったです。どうして河呂は河呂と名前がついたのですか。私は、何か川に関係するのだと思います。 ・播磨国というのは知っていたけれど、宍粟市を宍禾郡というのは知らなかったです。千草や宍粟というのは、違う言葉がなまってなったと聞いて千草はまだわかるけど、宍粟はちょっと無理があるなと思いました。 ・僕は、宍粟のことについてたくさんわかったし、これからもたくさん勉強していこうと思いました。また、いつ宍禾の「禾」が「粟」になったのかなと思いました。13年間も千種にいるのに知らないことばかりでびっくりしました。 ・風土記のことは社会で習ったけど、中身までは考えたことがなかったのでいい勉強になりました。昔の人は、税が上がらないようにするため嘘をついていたので賢いと思いました。昔のことをまた祖父や祖母に聞いてみます。
	 

(23) 第26回千種学講座

実施日時	1月21日(火) 13:15~14:05
主 題	千種の農村歌舞伎舞台から学ぶ
授 業 者	上山明
受講生徒	1年生 30名
目 標	千種に現存する農村歌舞伎舞台(河呂・岩野辺・下河野)の歴史的意義を学び、保存に尽力する地元住民の願いを知り、地域文化を継承する意欲を高める。
学習内容	(1) 宍粟や千種の文化財について学ぶ。 (2) 千種に現存する農村歌舞伎舞台とその役割について学ぶ。 (3) 河呂大森神社の歌舞伎舞台について、その仕組みや歴史について学ぶ。
学習記録	(1) 宍粟市内指定文化財一覧「しその文化財」を教材に、宍粟市内各町に現存する遺跡・社殿・仏閣・石碑・名勝・天然記念物・民俗文化財等を確認した。 (2) 千種町には、河呂大森神社(河呂)・二宮神社(岩野辺)・八重垣神社(下河野)の3つの農村歌舞伎舞台が現存している。兵庫県全体では140棟。宍粟市内では実に18棟が現存している。村人自身の演ずる「農村歌舞伎」は「地芝居」とも呼ばれ、娯楽の乏しい山間農村にあっては貴重な民俗芸能であった。 (3) 河呂農村歌舞伎舞台は、「兵庫県指定有形民俗文化財(昭和45年3月)」であり、規模は間口9.95m、奥行9.03m、床高0.93m、入母屋造で奈落を楽屋に利用しており、舞台構は皿廻式(さらまわししき)であった。創建は江戸時代末期であるが明治30年に大改修がなされている。昭和59年の大雪で壊滅的な被害を受けたが、地元の復元への熱意により、屋根を茅葺から鋼材葺きに変えて他は旧来の構造形状を固守して再建している。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・私はあまり千種の文化財について知りませんでした。農村舞台や地元の大森神社はとても身近にある建物ですが、県の文化財になっていることも知らなかったです。大事な千種の文化財を守っていきたいです。 ・私は農村歌舞伎舞台のことはあまり知らず、神社の祭りや劇をやっている場所ぐらいでしか知りませんでした。河呂の劇はたまに見ていますが、皿まわし式の舞台だということは初めて聞きました。またいろいろ教えて下さい。 ・今日の上山先生の話聞いて、歌舞伎の舞台はこまを人がまわすことには驚きました。また、舞台の役者は誰でもできるのがすごいと思いました。「奈落」という名前は怖いけれど、メイクしたりする所で、行ってみたいと思いました。 ・今日は昔の文化や文化財のことを知ることができて良かったです。私も秋祭りの時、千草と河呂の大森神社はつながっているので、よく劇を見に行きます。まさかあの建物をずっと昔から使っているとは思いませんでした。
	 

(24) 第27回千種学講座

実施日時	2月7日(金) 13:15~14:05
主 題	私たちと森林 ~木と森について考えてみよう~
授 業 者	岩成麻子
受講生徒	1年生 30名
目 標	千種 mountain と豊かな森林資源に目を向け、森林が果たす役割、森林開発及び保全、木材利用について学び、千種の森林産業の可能性を考える。
学習内容	(1) 身近な木の種類や用途、森林の種類や機能について学ぶ。 (2) 木材生産の流れや木材の利用方法について学ぶ。 (3) 人工林の手入れや昨今の変化、特に動物による害の原因について考える。 (4) 森林開発や環境保全の在り方を踏まえて、千種の森林の将来について考える。
学習記録	(1) 針葉樹と広葉樹、常緑樹と落葉樹 (2) 主な木の使い道: ヤマモモ(街路樹)、ケヤキ(大黒柱・床の間・お盆・お椀)、クスノキ(防虫効果があり、仏像・タンス・家具)、キリ(衣装ケース)など。 (3) 森林の機能: ①洪水や水不足を防ぐ、②山崩れを防ぐ、③空気の浄化(地球温暖化防止)、④生物のすみかを提供、⑤木材を生産 (4) 木材生産の流れ: ①伐採、②造材・搬出、③積込み・運搬、④木材市場でセリに掛けられる、⑤皮むき、⑥製材 → 木造住宅等の建築へ (5) 人工林は手入れが必要: 適正に間伐された森林で、しっかりとした木が育つ。 → 間伐しないと: 土が流れて根元が出てしまう。→ 幹がひょろひょろ、もやし状、木材として使えない。 (6) 間伐材を使って → 木質バイオマスの利用(ボイラー、発電、ストーブ) (7) 動物害の原因: ①人工林の増加と木の実の減少、②人が山へ入らず、外敵がいない、③人里に近づきやすくなった。 (8) 動物被害削減のために: ①畑には柵・野菜くずは埋める、②鹿の捕獲・利用、③植林木は柵で囲む(まめな管理が必要)
感 想	<p>・千種も「少子高齢化」のために木を伐る人が減っているので、僕達も興味を持たなければならないと思いました。そういった仕事のためにはどんな資格が必要なのかまた調べようと思います。</p> <p>・今日は色々な木の特徴などがわかりました。クスノキに防虫効果があるのには驚きました。また、木16本分が人間一人1年分の酸素を出すことや、山は土砂崩れや水害を防いでくれるので、手入れが大事であることもわかりました。</p> <p>・今回の千種学は、千草や宍粟にある様々な木材の名前や木材ごとの用途・特徴を学びました。また、木材関連の仕事についても教えてもらい、良かったです。</p>
	 

(25) 第28回千種学講座

実施日時	2月19日(水) 13:15~14:05
主 題	食を通して千種の良さを考えてみよう
授 業 者	今井和夫
受講生徒	2年生 32名
目 標	県下を代表する名水、千種川の清流を利用して生産される米、野菜、果実などの素晴らしさに気づく。
学習内容	(1) 「食」は命の源であることを再確認し、安全な食品の大切さについて学ぶ。 (2) 現代日本の「食」を取り巻く現状を知り、私たちの命や暮らしが如何に危険に曝されているかということについて学ぶ。 (3) 「食」の問題を通して「千種」の良さを再発見し、田舎暮らしが如何に貴重なものであるかということ、そして自らの今後の生き方について考える。
学習記録	(1) 一般食品の危険性 ①輸入食品の危険性：ア ポストハーベスト イ 遺伝子組み換え食品 ②家畜の抗生物質(太らせるため)、密集状態のプロイラー ③食品添加物：ア 亜硝酸Na イ カラメル色素 ウ 合成甘味料 エ 臭素酸カリウム オ タール色素 カ 防カビ剤 キ 殺菌剤 ク 酸化防止剤 ケ 合成保存料 コ 合成甘味料 (2) 都会の水の危険性：琵琶湖の水は人間の体を5回通って海に流れる。→大阪の水(塩素浄水処理工程で発がん性物質「トリハロメタン」が生じる。)→肝臓ガン死亡者数全国1位の大阪府 (3) 千種の良さ・田舎の素晴らしさ ①新鮮でおいしい食べ物と清らかな水 ②自然を知り、人が謙虚になれる。 ③自分で作るから「安全でおいしい物」が安く手に入る。 = 自分で作ることをしなければ、田舎の良さを享受できない。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・話を色々聞いて、都会の水や米などは田舎と比べて危険で怖いなど思いました。千種はきれいな水で、安全な食物を毎日食べることができるので、千種に住んでいてよかったと思うことができましたし、感謝して食べるようにします。 ・自分たちが今までに口にしてきた食べ物のほとんどが加工された物や輸入品ばかりで、その中には人体に有害な農薬や殺虫剤などがかけられた食べ物を口にしてきたのを改めて知ると、ものすごく怖かったです。 ・今日は、ポストハーベストや淀川のお話など、都会の食や水の怖い現状がよくわかりました。その反面、千種のような田舎は水がきれいで野菜も無農薬と、いいところを改めて確認できました。やっぱり田舎がいいなと思いました。
	 

(26) 第31回千種学講座 (第29回・第30回は実施できず)

実施日時	3月13日(木) 13:15~15:05
主 題	千種の将来を担う君たちへ
授 業 者	阿曾慎也、阿曾光子、木梨美由紀、土井康平
受講生徒	1年生 30名
目 標	千種中学校を卒業され、それぞれの事業所や職場で活躍されている先輩の方々から現在の仕事の様子やその仕事を志望された動機などを聞いて、将来の仕事選びの参考とする。また、千種に対する思いを学び、故郷千種への理解を深め、故郷を愛し、故郷に誇りを持ち、自ら故郷千種の未来を切り開いていこうとする意欲と態度を高める。
学習内容	(1) 各先輩の現在の仕事の内容や仕事への思いについて学ぶ。 (2) 各先輩が中学校時代に熱中したこと、楽しかったこと、辛かったことを聞く。 (3) 千種の将来をどうするかということについて、先輩と共に考える。
学習記録	(1) 第1部:「私の選んだ道」 ①現在の仕事の内容・仕事への思い ②現在の仕事の志望動機 (2) 第2部:「千種の思い出」 ①中学校時代を振り返って(楽しかったこと、辛かったこと、熱中したこと) (3) 第3部:「千種の将来を考える」 ①千種の将来について ・千種が誇る自然・文化・産業・社会(コミュニティ) ・千種に願うこと(よりよい社会づくり、自己実現に向けて) ②これからの社会の担い手である中学生に望むこと
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は先輩方の気持ちを詳しく聞くことができ、すごくいい機会だと思いました。僕は千種を「自然がきれい」としか思っていなかったけれど、「人が親切」という言葉を聞いて「なるほどな」と思いました。 ・小さい頃から好きだったことを大人になってもできることっていいなと思いました。仕事で大切なことは、協力・助け合いなどということもわかりました。仕事は好きだけではできないこともわかりました。私も頑張ります。 ・今日は色々な職業の方々に来て下さり、たくさんの事を知りました。千種は空気がおいしくて、都会では隣の人との関わりがないけれど、千種では人間関係も豊かに暮らせると全員の方が言っておられ、その通りだと思いました。 ・今日は仕事の事について教えて下さりありがとうございました。僕はなりたい仕事があるので、詳しく考えるきっかけになったし、他の仕事の事も今日わかったので、とても役に立ちました。
	 

6 総合地域学習「千種学」研究発表の記録

宍粟市立千種中学校
地域総合学習
「千種学」への取組
— 故郷を愛し、故郷に還る生徒の育成 —



平成25年度
宍粟市教育研修所教育研究大会
平成26年1月7日(火)
於：サンホールやまさき

1 はじめに - 学校紹介 -

- (1) 宍粟市北西部・中国山地の山間に位置
全校生徒84名の小規模へき地校。
- (2) 千種町「幼小中高連携一貫教育」
の中心校としての役割。
- (3) 平成22年度から千種高校と「連携型
中高一貫教育校」として再編。
- (4) コミュニティスクールで「千種に生き、
千種を活かす人づくり」を推進。

2 学校教育目標

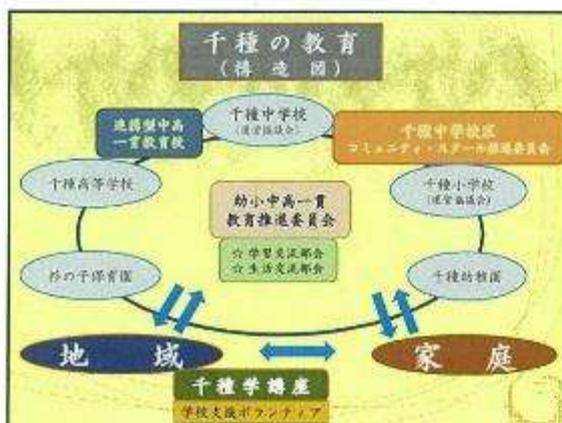
知を磨き 情につちかう

～ 故郷を愛し、故郷へ還る生徒の育成～

(重点目標) We do our best for our dreams.
(夢に向かって全力を尽くす)

本校校歌の作詞者、安田青風先生によって紡ぎ出された珠玉の言葉、校歌3番「知を磨き 情につちかい、人のため 世のためつよく、生きゆかん 一つ心に、ああわれら 若きいのちを」を典拠とす。千種中学校生徒魂の言葉として、心して感じたい。

総合的な学習の時間の実施



3 地域に学ぶ総合学習「千種学講座」について

(1) 経緯

- ア 平成9年から体験的郷土学習である「たたら製鉄学習」を毎年実施。
- イ 老人会との交流会「しめ縄づくり」を自治会ごとに毎年実施。
- ウ 平成23年度「総合的な学習の時間」を活用して「千種学講座」を設置。

(2) 学習スローガン

「千種を知り、
千種を愛し、
千種に誇りを」



(3) 目標

「千種の自然、歴史、文化、産業
を学ぶことにより、千種に誇り
をもち、千種を伝える力を育成する。」

(4) 実施上の特色

- ア 毎回地域の方々を講師として依頼。
- イ 概ね、1学期は3年生、2学期は2年生、3学期は1年生を対象に実施。
- ウ 毎学期ほぼ10回程度実施。
- エ 全教職員が共通理解、学校全体の取組。

4 「千種学講座」実施テーマ

(1) 3年生

	講座内容	講座内容
1	学校周辺の自然観察から学ぶ	6 千種の文化財
2	旬の山菜を楽しむ	7 伝統芸能（チャンチャコ踊り）
3	新聞の読み方	8 千種の地名から歴史を読み解く
4	産産特産三尺餅瓜	9 千種の将来を担う君たちへ
5	茶摘みと製茶体験	10 同世代体験学習

活動例紹介 < 3年生 >

(1) 「茶摘みと製茶体験」



(2) 「千種の伝統、文化等について」

伝統芸能（チャンチャコ踊り） 地名の由来



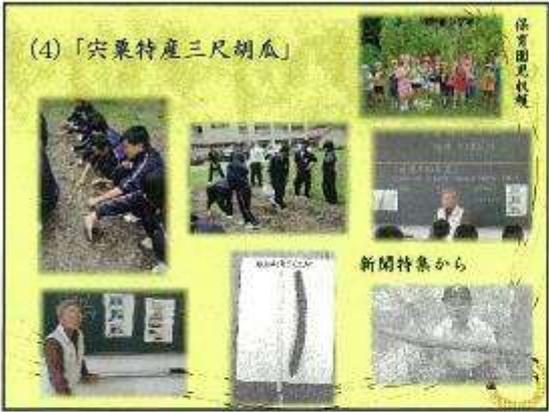
古代・中世 伝統行事 将来を担う君たちへ

陶芸教室



ぼたこ(抽餅)作り

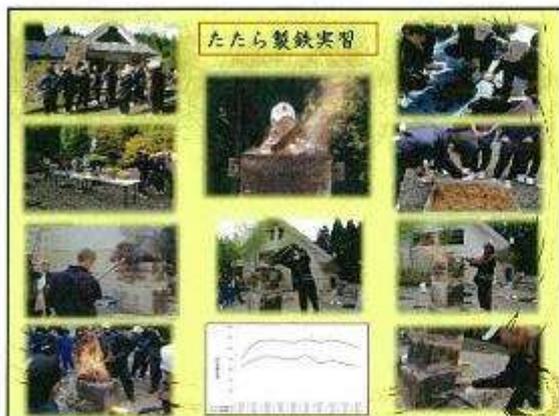




(2) 2年生

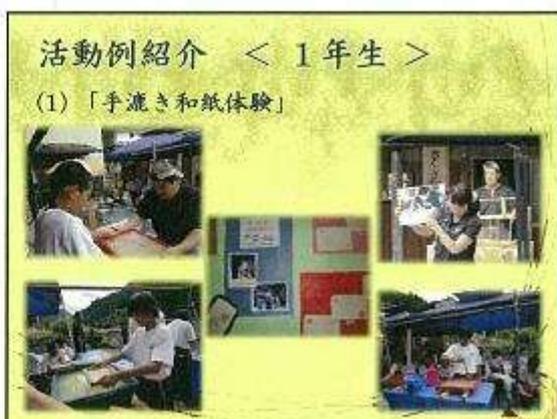
講座内容	講座内容
1 食生活を考える	6 国際感覚を養う
2 千種の農業を考える	7 播州平瀬和紙から学ぶ
3 たたら製鉄学習 ①和紙	8 千種川の生物
4 たたら製鉄学習 ②和紙	9 千種の農村舞台
5 たたら製鉄学習 ③まどぬ	10 地元企業から学ぶ

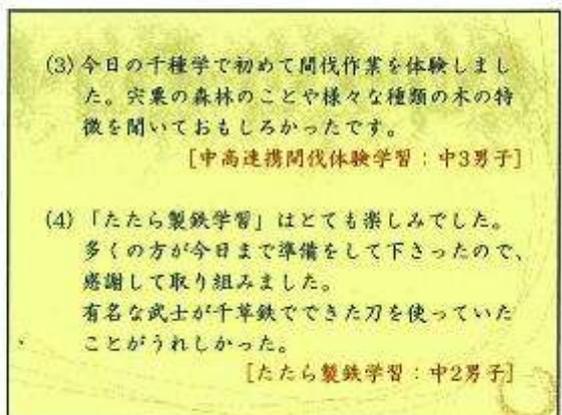
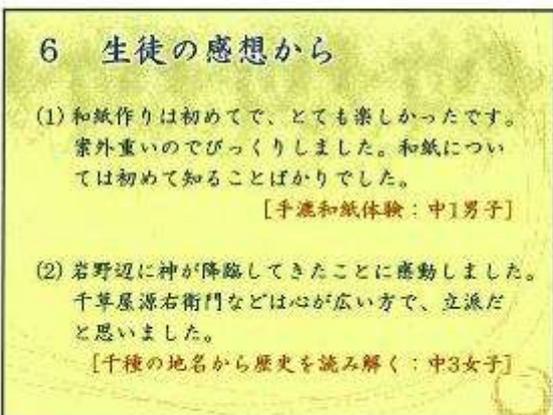




(3) 1年生

講義内容	講義内容
1 千種和紙体験	6 荒島の生態
2 鉛筆づくり	7 食生活を考える
3 学校周辺の植生①	8 地元企業見学
4 千種の木材を使ったもの作り	9 学校周辺の植生②
5 千種の植林を考える	10 千種の将来を想う会





7 「千種学講座」の成果

- (1) 地域の方々との交流の機会の増加。
- (2) 故郷「千種」に対する興味や愛着の表れ。
- (3) 地元の産業・農業・林業の未来を切り拓こうとする意欲の高まり。
- (4) 自己の将来の進路や職業についての意識づけ。

8 「千種学講座」の課題

- (1) 扱う題材が多過ぎて、調整が大きな負担。
- (2) 時間的負担が大きく、学習にも若干影響。
- (3) 予算的裏付けが薄く、実情は四苦八苦。

9 「千種学講座」の展望

- (1) 題材や教材を精選して講座を実施。
- (2) 小中高連携の中での異年齢集団の共同学習の推進。
- (3) 栄栗市や他の機関に依頼して予算を確保。
- (4) 故郷を愛し、故郷に還る生徒の育成。
積極的にPR!



7 平成25年度「千種災害対策プロジェクト」実施の記録

平成25年度、千種中学校と千種高等学校は、千種町は勿論宍粟市全域の林業関係の主な事業所の絶大なるご支援を得て、前代未聞の一大プロジェクトに取り組んだ。中高連携を軸にして、「森林教育」・「防災教育」・「ものづくり教育」という3つのキーワードが融合する形で、地元の木材を生かした「木造仮設住宅」の建設と「千種町立体ハザードマップ」の作製に取り組んだのである。その取り組みの過程で、今年が奇しくも昭和38年7月11日の「千種川大水害」から丁度50年に当たるということが明らかになり、当時の記録写真も次々と発掘せられ、地域住民の防災意識の高まりとともに、11月23日の「地域連携総合防災訓練」へと結実することとなった。これはその記録であり、次なる一步への大いなる提言である。

(1) 概要

阪神・淡路大震災や東日本大震災の被災経験から、防災・減災対策の見直しが進んでいる。また被災後の生活復旧にも注目が集まり、住環境整備の問題は生活の基本的課題となった。

こうした折、防災意識を促すための模型による立体的認識手法に期待が高まってきており、ハザード模型や木造住宅模型を貴重なメッセージ媒体として、身近なところから我々の力で出来る防災・減災対策を考えようと試みた次第である。

(2) 目的

千種町における洪水・浸水被害を想定して学校や地域住民が共に現状を認識し、ハザード模型による防災・減災対策を構築した。また木造住宅模型を作る過程において災害に対する意識の啓発を試み、災害対策は普段から心して行うものという意識付けを実践し、「減災→災害対応→生活復旧」の行動モデルを開発した。

(3) 時期

平成25年4月1日 ～ 平成25年12月31日

(4) 実施者

◎兵庫県立千種高等学校
宍粟市立千種中学校
しそう森林組合
日本工科大学校

4者で千種災害対策プロジェクト委員会
を設立（代表：千種高等学校）

(5) 活動内容概略

4月：千種町における自然災害の被害を危惧していた千種高校と、東日本大震災の復興ボランティア活動を行っていた日本工科大学校が協議し、千種地区の災害対策を構築することを決定した。千種高校を主幹事として、千種中学校・しそう森林組合、日本工科大学校が集まり、千種災害対策協議会を発足させた。(4/19)

5月：調査準備を開始し、資料収集を始め、活動計画を作成した。また活動内容の一層の充実を考え「ひょうご安全の日推進事業」に助成金の申請を行った。(5/20)

6月：「ひょうご安全の日推進事業」の助成金が認可され、ハザード模型の製作準備に取り掛かった。また木造仮設住宅模型事業への協力を得るため、宍粟市内の事業所や会社を訪問して内容を説明し、協力を要請した。

- 7月：合同会議(7/3)にて、進捗状況を報告、今後の方針を協議した。ハザード模型製作の調査のため、現地測量を実施した。また木造仮設住宅模型事業の協力を得るため、兵庫県農林水産技術総合センターや宍粟市内の事業所・会社を訪問し、内容を説明して協力を要請した。千種高校周辺地形調査のため、現地測量講習会を実施した。この測量には日本工科大学校を中心として、千種高校・千種中学の生徒も加わり実施された。(7/24) この結果を生かしてハザード模型の合同製作を実施した。
- 8月：事業の協力を得るため、宍粟市千種市民局阿曾茂夫局長を訪問して内容を説明し、協力を要請。(8/8) また、本委員会より依頼された日本工科大学校校長内藤先生が、木造仮設住宅の設計に取り掛かった。
- 9月：木造仮設住宅設計図が完成し、部材製作に取り掛かる。部材は千種産の木材を使い、加工は宍粟市内の事業所及び日本工科大学校で行った。また木造仮設住宅模型強度向上を目指し製作に用いる特殊仕口の講習会を、兵庫県立森林林業技術センターの協力で実施した。
- 10月：ハザード模型の合同製作を実施する。木造仮設住宅においては、部材（パネル）製作をしそう森林組合と千種中学生・千種高校生とともに行った。(10/23) また、日本工科大学校内藤康男校長により、千種高校にて防災意識向上のため講演会を実施した。(10/1)
- 11月：千種高校体育館において、11月6日木造仮設住宅模型組み上げの予行演習(リハーサル)を実施した。この時には仮設足場も組立て、安全性や組立て手順の確認を行う。11月23日地域連携総合防災訓練を実施した。当日は千種地域住民、千種中学・千種高校・しそう森林組合・日本工科大学校をはじめ、宍粟消防署、兵庫県教育委員会、兵庫県建設業協会、建築士会など多数の参加を得て盛大に行われた。またワークショップを開き、この活動から得たことや提言などを話し合った。
- 12月：千種高校にて「千種災害対策プロジェクト」報告会を実施。(12/11) この報告会には、プロジェクト委員会のメンバー・構成員を始め、ご支援いただいた事業所の方々も参加して下さった。これまでの活動を総括して報告し、今後のあるべき方針などが話し合われた。

(6) 活動内容詳細

① 測量調査

より詳細な地形情報を得るため、測量調査は平成25年7月から10月まで5回以上行い、水準測量・多角測量を実施した。水準測量は自動レベルによる直接水準測量、多角測量はトータルステーションによるトラバース測量を実施した。測量は日本工科大学校環境建設工学科の学生が中心となり実施したが、千種高校、千種中学の生徒にも測量講習会を実施した。

② 模型製作（千種町立体ハザード模型）

全体の状況をより視覚的・立体的にとらえるため、現地測量の結果を生かして模型製作を実施した。模型は、千種高校地区中心を1/2,000縮尺で表した模型を製作した。製作は日本工科大学校環境建設工学科学生と千種高校生徒との共同制作で行い、完成させた。その内容は次の通りである。

ア 製作期間：平成25年7月1日～11月30日（実製作日数30日）

イ 製作参加人員：日本工科大学校環境建設工学科及び千種高等学校生徒延べ120人

ウ 製作方法：2号模型は国土地理院地形図（1/25,000）をもとに、縮尺1/2,000に拡大して、等高線を実測することで製作した。また現地測量を行い、模型製作のデータを収集した。使用材料はスチレンボード、スチレンペーパー、液体プラスチック、塗料などである。

③ 木造仮設住宅

ア 概要

被災前の被害想定がハザードモデルであるなら、被災後の対応が木造仮設住宅である。これは東日本大震災の復興ボランティア活動を行ってきた日本工科大学校が、陸前高田市にて木造仮設住宅を実際に構築したときの経験と、千種町の特産である木材を活用するアイデアが合致した結果である。安らぎのある木造仮設住宅模型に取り組むことで、学校や地域社会の防災意識もより向上するものとして取り組むことにした。

イ 協力体制の構築

木造仮設住宅には、材料の調達から加工、運搬、組立てなど様々な企業・団体の協力が必要となった。そのためプロジェクト委員会として各所企業・団体を回り説明を行って、協力を要請した。その結果、有難いことに以下の企業・団体の協力を得ることができた。

宍粟市千種市民局様、兵庫県立森林林業技術センター様、しそ森林組合様、バンリン様、共同組合しそりの森の木様、兵庫木材センター様、パナソニック電気(株)様、信和(株)様、兵庫県建設業協会様、(株)タナカ様、ホームセンターアグロ様 (順不同・敬称略)

ウ 設計

木造仮設住宅の設計は、プロジェクト委員でもある1級建築士内藤康男先生に依頼した。設計は仮設住宅ではあるが、継手などの構造耐力を考慮して十分に使用に耐える構造設計にしてある。内藤先生が基本設計・部品加工図・組立図を完成させたことにより、木材加工が可能となった。

エ 木材搬入

仮設住宅の部材はしそ森林組合に協力願い、千種町内で産出された県産材を使った。

オ 木材加工

木材加工は、しそ森林組合から提供された乾燥木材を使い、バンリンで製材、共同組合しそりの森の木でプレカットを行った。また今回、兵庫県立森林林業技術センターが開発し、強度を大幅に強化した新しい仕口を取り入れることとなった。このため兵庫県立森林林業技術センターの協力で、9/30日本工科大学校で技術講習を行い、木造仮設住宅に新型仕口を取り込んだ。壁材にあたる木造パネル製作は、千種町の大工(林棟梁・春名棟梁)の指導により、10/23千種高校・千種中学の生徒が製作した。組立て工具はパナソニック電気(株)より提供された6台のインパクトドリルを使った。

カ 組立て(施工)準備

日本工科大学校にて継手や部材の確認を行った後、部材をバンリンに持ち込み、組立て準備する。また屋根部材も取り付けるため、足場が必要であるが、(株)信和より提供された足場鋼材を11/1(金)千種高校に搬入してもらう。建前に向け11/6(水)千種高校体育館においてリハーサルを行う。当日は千種高校生、日本工科大学校学生、林・春名棟梁が参加する。ここでは実際に足場を含め、すべて組立てを行い、問題個所をチェック、修繕を行った。

キ 地域連携総合避難訓練(建前)

11月23日(土)千種高校体育館で地域連携総合避難訓練を実施した。詳細は後述しているが、当日は千種中学校・千種高校・千草自治会・教育委員会・兵庫県建設業協会・消防署など多方面からの参加者を得て、盛大に行われた。

(7) 地域連携総合防災訓練

今回の防災プロジェクトを地域一体となって行うため、「地域連携総合防災訓練」を実施した。その内容は次の通りである。

兵庫県立千種高等学校平成25年度地域連携総合防災訓練

1. 目的：

- (1) 昭和38年7月11日千種川大水害を偲び、爾来50年を刻む機会とする。
- (2) 本校体育館避難所指定(25年3月)を受け、地域との連携を確立する。
- (3) 「ひょうご安全の日推進指定事業—千種災害対策プロジェクト—」を推進する。

2. 日時：平成25年11月23日(土・勤労感謝の日) 8:30~12:00

3. 会場：兵庫県立千種高等学校 体育館等

4. 参加者：兵庫県立千種高等学校、宍粟市立千種中学校、しろう森林組合 日本工科大学校、宍粟市千種市民局、千種町住民、宍粟消防署 兵庫県建設業協会、建築士会、他多数

5. 方針：

- (1) 全校登校日とし、「地域連携総合防災訓練」を実施する。
- (2) 体育館内で木造仮設住宅実物大模型を建設し、そのノウハウを広く公開する。
- (3) 千草自治会と連携し、体育館避難所運営及び住民避難誘導訓練を実施する。
- (4) 地元消防署の指導を仰ぎ、救護・搬送及び救命救急訓練を実施する。
- (5) PTA及び千種高校を支援する会と連携し、炊き出し訓練を実施する。

6. 内容：

- (1) 8:30 SHR直後に地震発生・非常ベル → 体育館集合
- (2) 8:35 点呼・確認後各配備に付く(仮設住宅組立班[中学生10名、高校3年男子15名]、住民避難誘導班[2年生27名]、救護班[1年生25名]、炊き出し班[3年生女子14名])
- (3) 8:35 体育館木造仮設住宅建設準備開始(体育館入口付近コンパネ敷設・足場組、体操服・ヘルメット着用)、炊き出し班作業開始(調理室：PTA・支援する会)
- (4) 詳細別途作成：避難誘導計画、教護訓練計画等(救護役と怪我人役を分ける)
- (5) 9:00 千草自治会住民到着開始(入口は北側2カ所、下足用ビニール袋等配布)
- (6) 9:45 木造仮設住宅建設開会式(校長挨拶・来賓挨拶・協力団体紹介・棟梁紹介等)
- (7) 10:00 木造仮設住宅公開建前開始(代表生徒による実況中継アナウンス)
- (8) 11:30 上棟式(餅撒き)
- (9) 11:50 閉会式(中学校長挨拶・連合自治会長挨拶・万歳三唱等)
- (10) 12:00 昼食(炊き出しカレー等：来賓[応接室]・高校生[HR教室]・中学生[美術教室]・地域住民[調理教室等])
- (11) 13:00 木造仮設住宅解体作業開始(中学生・高校3年男子、他の生徒は見学か授業)
- (12) 15:00 解体作業完了後、各部材しろう森林組合千種支所倉庫へ搬送

当日は千種中学校・千種高校・地元町内会・消防・企業など、多くの参加者を得て盛大な防災イベントとなり、マスコミ等の取材者も多く来場された。最初に消防署による避難方法やけが人の手当てなどの講習があり、その後に木造仮設住宅の組立てを行った。住民が見守る中、生徒たちも緊張した面持ちで組立てを行い、予定通り順調に組上げた。組上げ後は上棟式を実施し、餅まきを行って成功を祝った。

(8) 提言

① 地域災害拠点としての学校の存在価値（過去の大水害から学ぶもの）

千種町は昭和38年7月11日に大水害の被害を受けている。この水害は千種町に長年居住する住民にとっては、忘れられない出来事となっている。



三室山方向(奥に千種分校)



真西橋付近(消防団活動中)



千種商店街(手前に避難用ロープ)



激流迫る南小学校(現千種小)

千種町における最大雨量として記録に残っているのは、2009年8月9日に71mm/時、24時間で251mmを記録している。また下流に当たる佐用町、赤穂市では度々水害が起きている。その後千種町においては河川整備も進み、以前のような大水害の被害は受けていない。現在千種町内に流れる千種川は、千種高校の下方（南方）約400mで岩野辺川と合流している。この合流地点において川幅は約50m、河床まで約4.5mあるので、水害に対してもまだ余裕があると考えられる。

しかし問題点も考えられる。これは上流での土砂災害（崩落）による水害であろう。千種高校上流斜面は、山腹崩落危険地区および地すべり危険個所に指定されており、ここでの土砂崩落は河川形状を変える恐れもある。そのような場合には想定外の被害が起きても不思議ではない。過去の大水害では、道路上まで冠水している写真もあり、これが夜間であればかなり危険な状態になると考えられる。

そのような中、鉄筋コンクリート重層構造の千種高校・千種中学校の安全性は地域社会の頼りであり、災害拠点としての存在価値は重要になるう。

これらのことから、提言としての価値を高めるためにも地域で学校を拠点とした避難訓練の定例化や、学校までの安全ルートの確立・避難施設としての整備などが求められる。河川増水時、道路路面が見えないこともある。夜間においては、表示が見えないことも考えられる。最悪の状況を考え、そのための施設整備（ハード）も必要である。また高齢化が進む地区でもあり、災害弱者のための援助が必要である。これには地域の合意として避難ルールの確立・明示・認識が求められる（ソフト）。

② 木造仮設住宅の製作スキーム

2011.3.11 東日本大震災の復興事業において、日本工科大学校は震災翌月、岩手県陸前高田市に入り被災者向けの木造仮設住宅を建設した。このとき木造であることが、ほかの仮設住宅とは大きく違うことを、被災者の話より実感した。また建設中に木造材料の供給待ちという事態があり、木造仮設住宅部材の供給体制の大切さを痛感した。

被災後の災害対策は、時間との勝負でもある。被災者には一刻も早く落ち着ける家の提供が求められ、木造仮設住宅は人にやさしい手段として有効である。今回製作された木造仮設住宅は、千種町の木材資源を有効に活用でき、地域社会が一体となって展開できるものである。

緊急時に地域の将来の担い手である中高生が参加することで生産量の増加が可能となり、より多くの被災者に提供できることが証明された。参加した生徒たちもこのような地域社会活動に参加することで、防災意識の向上、自分たちの存在価値や社会貢献を再認識できたと考える。

今回の製作過程で認識できたことは、木造仮設住宅の製作スキーム（計画・枠組み）の構築が大切であるということである。緊急時には地域一体となった活動が必要であり、そのような場合どのようにして動くか、そのノウハウを得たことにある。

提言として、千種町の木造仮設住宅の製作スキームの確立が求められる。定期的に材料の製作、組立て練習を行うことで、緊急時にはオリジナル木造仮設住宅の供給を、短期間にできるようになる。そのためには材料供給体制（ハード）の確立と、中学生や高校生にも製作技術の伝承（ソフト）が必要となるのである。

「千種災害対策プロジェクト」記録写真集

		
プロジェクト委員会(7/3)	千種町中心部測量作業(7/24)	内藤先生防災講演会(10/1)
		
壁パネル作製作業(10/23)	住宅建前リハーサル(11/6)	ハザードマップ完成(11/22)
		
総合防災訓練(11/23)	仮設住宅公開建築(11/23)	プロジェクト発表会(12/11)

8 平成25年度 新聞で見る「千種学」

スキー場にゆり園 球根植え付け協力 千種中・高生

栄業市千種町のゆり公園。スノーボードで遊ぶ人々。千種中学校と千種高等学校の1年生計68人が11月の週末、球根植え付けを行った。同スキー場で7月13日に開園を予定しているゆり園の整備に、中高連携事業の一環として協力した。

ゆり園は、観光客を夏に呼び込むとスノーボードを滑る人々を誘引するべく、開園前企業組合が初めて企画。5色のユリ150万輪の開花を目標とし、球根約1万個をケレンテ周辺に植え付けた。この日はさらに球根も600個を用意。生徒らはスコップを使い、花壇に掘った穴に球根を入れて土をかきつけた。高校1年の香藤大地さん(15)は「ユリを通して地域の知名度が上がるといいので力が入った。多くの人に観に来て欲しい」と話した。



栄業・千種中3年生 陶器作りに挑戦 地元の当麻さん指導

栄業市千種町の栄業中学校。陶器作りに挑戦する3年生。指導する当麻さん(中央)の指導を受けながら、陶器作り。指導する当麻さん(中央)の指導を受けながら、陶器作り。

栄業市千種町の栄業中学校。陶器作りに挑戦する3年生。指導する当麻さん(中央)の指導を受けながら、陶器作り。



朝日新聞 5月10日(金)

神戸新聞 6月21日(金)

ハザード模型製作へ 千種川の氾濫に備えて 千種中・高生

栄業市千種町の千種中学校と千種高等学校の生徒が、千種川の氾濫に備えてハザード模型製作に取り組んでいる。千種川の氾濫に備えてハザード模型製作に取り組んでいる。

千種川の氾濫に備えてハザード模型製作に取り組んでいる。



製鉄体験「勉強になった」 栄業・たらの里で千種中生徒ら

千種市の歴史や伝統を学ばせ、生徒たちが夏休みに入る前に、栄業市千種町の「たらの里製鉄体験」で1日、千種中学校の2年生30人が、古代から明治時代まで地元の産物だった「たたら製鉄」を体験した。

千種市の歴史や伝統を学ばせ、生徒たちが夏休みに入る前に、栄業市千種町の「たらの里製鉄体験」で1日、千種中学校の2年生30人が、古代から明治時代まで地元の産物だった「たたら製鉄」を体験した。



卒業生から仕事観学ぶ 1年30人 地元の魅力も再確認 栄業・千種中

栄業市千種町の栄業中学校。卒業生から仕事観を学ぶ1年30人。地元の魅力も再確認。

栄業市千種町の栄業中学校。卒業生から仕事観を学ぶ1年30人。地元の魅力も再確認。



木造仮設住宅を建築 日本工科大学校が協力 林業の活性化に

千種中・高生 栄業産の杉使い挑戦

千種市の歴史や伝統を学ばせ、生徒たちが夏休みに入る前に、栄業市千種町の「たらの里製鉄体験」で1日、千種中学校の2年生30人が、古代から明治時代まで地元の産物だった「たたら製鉄」を体験した。



9 広報しろう「しろうトピックス」で見る「千種学」



ユリの植栽 5/9 ちくさ高原

千種中学校1年生30人と千種高校1年生39人がスキー場ゲレンデにユリの球根を植えました。この夏のユリ園の開園に向け中高連携事業の一環として行われたもので、参加した中学生は「初めての作業だったけれど上手にできました。開花が楽しみです」と話していました。



不法投棄はいけません 6/4 千種町西山・志引峠

千種中学校と千種高校の生徒が岡山県境の志引峠と街なかのごみ拾いを行いました。これは中高連携美化活動の一環として行われたもので、生徒がポイ捨てされた空き缶やペットボトル、壊れたパイプなど峠の谷底から力を合わせて拾い上げました。



たたら製鉄体験 10/31 天児屋たたら公園
千種中学校2年生が古来から営まれてきた「たたら製鉄法」の体験を行いました。千種鉄保存会の指導のもと地元で採取した母鉄20kgをドラムから約10kgの鉄の塊（行ら）と呼ばれる鋼の塊を取り出しました。生徒らは「熱かったけど楽しかった」と話していました。



お正月にはしめ縄を 12/6 千種町千草

小中学校の校外学習の一環として自治会老人クラブ会員の指導による「しめ縄づくり」が行われました。小学生は、今回初めての挑戦で少しぎこちない手つきでしたが、中学生は慣れた手つきで縄を織み、新しい年に向けて希望を込めた手作りのしめ縄が完成しました。



11:50上棟式

事前に作っておい
たパネルを組み合
わせ、約2時間で9
坪の住宅ができた
ました。



仮設住宅に木の温もりを 11/23 千種高校



防災学習の一環として、東日本大震災で岩手県陸前高田市が導入を進めた木造の仮設住宅建設に千種高校と千種中学校の生徒が挑みました。

取り組みに賛同した林業や建築関係者の協力のもと、建築材には大栗杉を活用し、組み方や断熱など工法にもこだわった仮設住宅です。防災学習だけでなく山林活用という面からも、大栗市ならではの新しいチャレンジとなりました。



10:10着工

10 おわりに

総合地域学習「千種学」は、平成23年4月に初めて開講し、本年度で3年目を迎えました。3年ではありますが、「千種学」の中心核である「たたら製鉄学習」の歴史は平成9年に遡り、足掛け17年にもわたる一大事業となっています。今振り返ってその来し方を思う時、講師としてお世話になった数多くの地域の皆様に対しまして、唯々「感謝」という、その一言に尽きます。

この総合地域学習「千種学」は、平成22年度千種中学校運営協議会から「千種ならではの教育を推進して欲しい」という依頼を受けて、平成23年度の教育課程に「総合的な学習の時間」の一環として取り入れられることとなりました。生徒に故郷千種のことを知ってもらい、地域での体験活動を通して、千種の魅力に気づいて欲しいという地域の願いを受けて、地域の方を講師に迎えた「千種ならではの学習」がスタートしたのです。

初年度、この千種学の年間指導計画を作成するに当たり、講座内容の検討、講師の選定、日程調整をしていくうちに数多くの問題が浮上し、はたしてこの地域学習が実施できるか不安でした。しかし、地域の皆様方から温かい応援をいただき、講師を依頼する方々も快く引き受けてくださいました。「千種学」は、地域の皆様方のご支援によって段々と形を為し、回を重ね年を経るごとに厚みを増しながら、県下に誇れる実践として今日までの歩みを進めることができたのです。

そして、平成25年度には従来の千種学に加えて、「千種災害対策プロジェクト」という実に壮大なる実践教育を推進することができました。これは、従来千種学で実施してきた「森林教育」や「ものづくり教育」が基礎となっており、ここに「防災教育」という新たな視点を持たせることによって、いざという時には中高生でも地域の役に立つことができることを実証し得たのです。この一大事業も同様に、数多くの地域の皆様のお力添えがあって初めて成ったことでした。今後、この経験を如何に千種のまちづくりに繋げていくかということが大きな課題ですが、将来の千種を担う中高生には、常に「ふるさとの発展」ということを念じてもらいたいと思います。

千種学を受講する生徒の皆さんには、その目的にあるとおり、千種の自然、歴史、産業を学び、千種に誇りを持ち、千種を伝える力を身に付けて欲しいと思います。そして、将来千種を離れることがあったとしても、千種学の体験が故郷千種への思いを繋げてくれることを願っています。

宍粟市立千種中学校 鳥居 政義

平成25年度
総合地域学習「千種学」講座の記録

平成26年3月15日 印刷
平成26年3月22日 発行

編集・発行 「千種学」教材開発研究会
